

平成27年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

食と観光で世界を魅了する 「かごしま」の地元定着促進プログラム



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, KAGOSHIMA COLLEGE

目 次

1.概要

1.1 事業の目的	1
1.2 事業の概要	1
1.3 実施内容	2
1.4 実施体制及び産学官連携体制	3

2.活動状況

2.1 「COC+高専」地方創生推進会議	6
2.2 学生・保護者及び地域企業に対するアンケート	11
2.3 特別講座・企業見学・体験学習・卒業研究発表会	20
2.4 先進事例・シンポジウム視察	41
2.5 ホームページの構築	49
2.6 評価会議	50
2.7 地方創生シンポジウム	53
2.8 教職員による企業見学	55

3.今後の取組

3.1 COC+事業の取組概要	56
3.2 平成 28 年度の取組計画	58
3.3 実施体制	59
3.4 まとめと課題	60

4.おわりに

4.1 おわりに	61
----------------	----

1. 概要

1.1 事業の目的

地域で活躍する人材の育成や大学を核とした地域産業の活性化、地方への人口集積等を推進するため、地域における複数の大学等が、地域活性化政策を担う地方公共団体、人材を受け入れる企業や地域活性化を目的に活動するNPOや民間団体等と協働し、地域における雇用創出や学卒者の地元定着率の向上を図る。

1.2 事業の概要

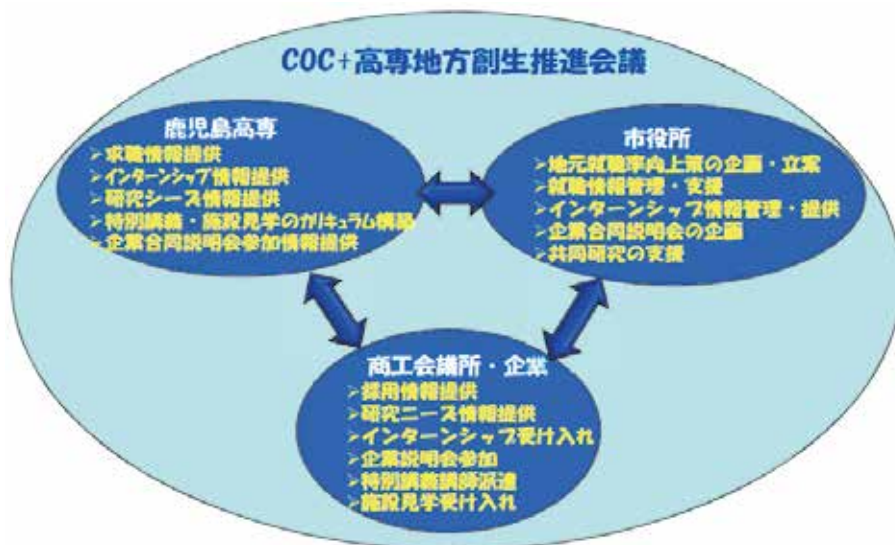
地元就職率と定着率の向上を目標に、鹿児島高専・霧島市・日置市・両市商工団体・企業団体の産学官連携による新卒者の地元企業への就職と定着を図るための方策と支援を検討し、実行する組織として「COC+高専」地方創生推進会議を設立。行政・商工団体・企業等が一体となって、情報を共有し、地元活性化のための生産人口を継続的に増やすために、地元就職率と定着率アップを図る。



霧島市との連携協定



日置市との連携協定



「COC+高専」地方創生推進会議

1.3 実施内容

地域企業や公共機関、地方自治体等の有識者の協力を得て、以下の取り組みを実施することとした。

①COC+高専地方創生推進会議の設置

鹿児島高専・霧島市・日置市・両市商工団体・企業団体の産学官連携による新卒者の地元企業への就職と定着を図るための方策と支援を検討し、実行する組織として設立し、年度内に4回の地方創生推進会議と年度末に評価会議を開催する。

②取り組む事業内容

事業Ⅰ 地元企業インターンシップの推進

高専は、学生の受け入れ企業の巡回指導をすることにより、地元企業を知り、市役所は地元企業の雇用のニーズを知る。商工会・企業は、産業の活性化を図り、採用側としてのニーズを知る。学生は、企業体験を通して、地元企業を知り、新規学卒者の地元就職率アップを狙う。

事業Ⅱ 地元企業合同説明会の推進

高専は就職指導、両市役所は、説明会の企画と高専への橋渡し役を行い、学生の就職希望と企業の求人のマッチングを行い、学卒者の地元就職率の向上を目指す。両市役所、商工団体・企業、高専が一体となって就業マッチングの機会を設け、地元雇用の推進を行う。

事業Ⅲ 地域教育特別講座の推進

商工会・企業、市役所から高専へ有識者、技術者、職員を派遣して、学生に地域の産業・環境・文化などに地域資源に関する分野の講演をして、地域社会を理解してもらうための“地域教育特別講座（集合教育、ゼミ、施設見学）”を設け実施する。将来の地域の活性化を担う若年者の人材育成を行う。

事業Ⅳ 奨学金による地元就職の推進

地方創生交付金を活用し、市役所および企業が連携して地元での新卒者の雇用と定着を図るため地元就職者奨励金支給制度を設立し、新卒者の地元就職を促進する。

事業Ⅴ 地元企業ニーズと高専のシーズによる共同研究の推進

地方創生交付金を活用し、地域の特徴を活かした新産業創出を図るため、高専のシーズと地元企業のニーズをマッチングさせた共同研究を推進する。そのための助成金制度を設ける。

③報告書の作成

取組成果をまとめて報告書を作成、発行

1.4 実施体制および産学官連携体制

実施体制

COC+高専ワーキング・チーム

平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」の申請及び事業実施のために、定期的なミーティングを開催し、プロジェクトの企画立案や実施方法等について協議するとともに、事業実施に関し、その取り組みが全学的な取り組みになるように各科・専攻等と連携し、プロジェクトの推進を図ることを目的として、COC+高専ワーキング・チームを設置した。

COC+高専ワーキング・チーム

リーダー	植 村 眞一郎（副校長：センター長）
サブリーダー	楠 原 良 人（副センター長）
メンバー	西 留 清（センター部門長）
〃	南金山 裕 弘（センター部門長）
〃	須 田 隆 夫（教務委員会）
〃	玉 利 陽 三（専攻科委員会）
〃	宮 田 千加良（電子制御工学科）
〃	島 名 賢 児（電子制御工学科）
〃	篠 原 学（一般教育科）
〃	遠 矢 良太郎（産学官連携教育CD）
〃	安 楽 四 郎（総務課長補佐）
〃	塩 盛 秀 彰（総務課企画係）
〃	和 田 菜美歌（総務課 COC+事業担当）

「COC+高専」地方創生推進会議

大学改革推進等補助金による、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」の本校に係る事業を効率的に実施するため、高専、霧島市、日置市、両市商工団体、地域企業団体の代表者で組織する「COC+高専」地方創生推進会議を設置した。

「COC+高専」地方創生推進会議メンバー

委員	堀 切 昇	(霧島市企画部企画政策課課長)
〃	谷 口 隆 幸	(霧島市商工観光部商工振興課課長)
〃	堂 下 豪	(日置市総務企画部企画課課長)
〃	成 田 郷	(日置市総務企画部企画課企画開発係長)
〃	鶴ヶ野 未央	(株式会社九州タブチ代表取締役社長)
〃	鎌 田 安 典	(鎌田建設株式会社専務取締役)
〃	松 崎 博 昭	(昭光エレクトロニクス株式会社取締役)
〃	山 口 剛	(霧島商工会議所専務理事)
〃	泊 敏 行	(日置市商工会事務局長)
〃	眞 竹 龍 太	(株式会社鹿児島経済研究所企画戦略部主任研究員)
〃	植 村 眞一郎	(鹿児島高専副校長 (国際交流・地域連携担当) 兼 地域共同テクノセンター長)
〃	楠 原 良 人	(鹿児島高専地域共同テクノセンター副センター長)
〃	宮 田 千加良	(鹿児島高専電子制御工学科教授)

要項第7条に基づく出席者

遠 矢 良太郎 (鹿児島大学産学官連携推進センター
COC+推進部門特任専門員 (コーディネーター))

オブザーバー

西之園 健 (霧島市企画部企画政策課企画政策グループ主事)
安 楽 四 郎 (鹿児島高専総務課長補佐 (企画担当))
田 尻 正 和 (鹿児島高専総務課企画係長)
塩 盛 秀 彰 (鹿児島高専総務課企画係)
和 田 菜美歌 (鹿児島高専総務課 COC+事業担当)

産学官連携体制



「COC+高専」地方創生推進会議要項

平成 27 年 12 月 22 日

「COC+高専」地方創生推進会議
設立会議決定

（目的）

第 1 条 大学改革推進等補助金による、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」の鹿児島工業高等専門学校（以下「鹿児島高専」という。）に係る事業（以下「推進事業」という。）を実施するため、「COC+高専」地方創生推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

（業務）

第 2 条 推進会議は、次に掲げる業務を所掌する。

- (1) 推進事業の統括に関すること。
- (2) 推進事業の基本的方針に関すること。
- (3) 推進事業の実施に関すること。
- (4) その他推進事業の目標達成に必要なこと。

（組織）

第 3 条 推進会議は、次に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 鹿児島高専 3 名
- (2) 霧島市及び日置市 各 2 名
- (3) 企業団体の代表 若干名
- (4) 霧島市及び日置市の商工団体 各 1 名
- (5) その他推進会議が必要と認めた者

2 構成員の任期は、平成 32 年 3 月 31 日までとする。ただし、構成員に交代が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第 4 条 推進会議に、会長及び副会長を置き、会長は鹿児島高専の代表委員をもって充て、副会長は、霧島市及び日置市の代表委員をもって充てる。

2 会長は、推進会議を招集し、その議長となる。

（議事）

第 5 条 推進会議は、構成員の 3 分の 2 以上の出席により成立し、議事は、出席者の過半数の同意により決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

（代理出席）

第 6 条 会長は、構成員が推進会議に出席できない場合は、代理の者の出席を認めることができる。

（構成員以外の出席）

第 7 条 推進会議が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（専門部会）

第 8 条 推進会議は、推進事業を円滑に実施するため、推進会議の下に、必要に応じて専門部会を置くことができる。

2 専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第 9 条 推進会議の事務は、鹿児島高専総務課において行う。

（その他）

第 10 条 この要項に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成 27 年 12 月 22 日から施行する。

2 活動状況

2.1 COC+地方創生推進会議

「COC+高専」地方創生推進会議（仮称）設置準備委員会

1. 日 時：平成 27 年 11 月 5 日（木）10:30～
2. 場 所：鹿児島高専 管理棟 2F 小会議室
3. 出席者：霧島市企画部企画政策課：堀切 昇、藤崎 勝清
霧島市商工観光部商工振興課：濱崎 利広、野崎 勇一
日置市総務企画部企画課：成田 郷、小園 秀作、笠毛 智子
鹿児島高専：植村 眞一郎、楠原 良人、遠矢 良太郎
オブザーバー
霧島市企画部企画政策課：松永 俊宏、西之園 健
鹿児島高専：安楽 四郎、田尻 正和、塩盛 秀彰
4. 会次第：1) 開会
2) 副校長あいさつ
3) 委員紹介
4) 委員長選出
5) 議事
 1. 会議の趣旨説明
 2. 三機関の地方創生事業の概要説明
 - 2-1 鹿児島高専
 - 2-2 霧島市
 - 2-3 日置市
 3. 「COC+高専」地方創生推進会議の設置
 4. 今後の進め方
 5. その他
- 6) 閉会

- 資 料：1. 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム
2. 鹿児島高専の概要
 3. 霧島市の地方創生概要
 4. 日置市の地方創生概要
 5. 「COC+高専」地方創生推進会議設置要項（案）
 6. 平成 27 年度事業実施スケジュール

「COC+高専」地方創生推進会議設立会議及び
平成 27 年度第 1 回「COC+高専」地方創生推進会議議事

1. 日 時：平成 27 年 12 月 22 日（火）10:30～
2. 場 所：鹿児島高専 管理棟 2F 中会議室
3. 出席者の確認
4. 会次第

「COC+高専」地方創生推進会議設立会議

- 1) 開会
- 2) 校長あいさつ
- 3) 出席者紹介
- 4) 議長選出
- 5) 議事
 1. 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
の事業概要について
 2. 「COC+高専」地方創生推進会議要項（案）について
 3. その他

平成 27 年度第 1 回「COC+高専」地方創生推進会議

- 1) 議事
 1. 鹿児島高専の事業概要について
 2. 今後の進め方について
 3. その他
- 2) 閉会

- 資 料：1. 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム
2. 「COC+高専」地方創生推進会議要項（案）
 3. 鹿児島高専の事業概要
 4. 平成 27 年度事業実施スケジュール

平成 27 年度第 2 回「COC+高専」地方創生推進会議議事

1. 日 時：平成 28 年 1 月 26 日（火）13:30～
2. 場 所：鹿児島高専 管理棟 2F 中会議室
3. 出席者の確認
4. 前回議事要旨の確認

議事

報告事項

1. COC+事業の進捗状況について
2. アンケート調査（学生・保護者）について
3. その他

審議事項

1. 企業向けアンケート調査について
2. 今後の進め方について
 - 1) インターンシップの推進について
 - 2) 地域企業合同説明会の推進について
3. その他

連絡事項

1. 次回地方創生推進会議の日程及び開催場所
日時：平成 28 年 2 月 17 日（水）10:30～
場所：鹿児島高専 中会議室
2. その他

- 資 料：1. COC+事業の進捗状況について（代表校：鹿児島大学）
2. 鹿児島工業高等専門学校 就職に関する意識調査結果（学生・保護者）
 3. 企業の求人等に関する調査（案）
 4. 今後の COC+事業の進め方

平成 27 年度第 3 回「COC+高専」地方創生推進会議議事

1. 日 時：平成 28 年 2 月 17 日（水）10:30～
2. 場 所：鹿児島高専 管理棟 2F 中会議室
3. 出席者の確認
4. 前回議事要旨の確認

議事

報告事項

1. COC+事業の進捗状況について
2. その他

審議事項

1. 企業向けアンケート調査について
2. インターンシップ及び地域企業合同説明会の推進について
3. 今後の進め方について
4. その他

連絡事項

1. 次回地方創生推進会議の日程及び開催場所
日時：平成 28 年 3 月 16 日（水）13:30～
場所：鹿児島高専 中会議室
2. その他

- 資 料：1. COC+事業の進捗状況について（代表校：鹿児島大学）
2. 「COC+高専」に関する鹿児島高専の取組
 3. 企業の求人等に関する調査（案）
 4. インターンシップ&合同企業説明会事業の考え方
 5. 高校生のための合同企業セミナー（日置市）

平成 27 年度第 4 回「COC+高専」地方創生推進会議議事

1. 日 時：平成 28 年 3 月 16 日（水）13:30～
2. 場 所：鹿児島高専 管理棟 2F 中会議室
3. 出席者の確認
4. 前回議事要旨の確認

議事

報告事項

1. COC+事業の進捗状況について
2. その他

審議事項

1. 平成 27 年度事業報告について
2. 平成 28 年度事業計画（案）について
3. その他

連絡事項

1. 次回地方創生推進会議の日程及び開催場所
（各委員に日程調整のうえ、新年度の早い段階で開催予定）
場所：鹿児島高専 中会議室
2. その他

- 資 料：1. COC+事業の進捗状況について（代表校：鹿児島大学）
2. 平成 27 年度の計画概要と実績
 - 1) 鹿児島高専 COC+ワーキング・チーム
 - 2) 「COC+高専」における講義・講演及び企業見学（体験学習）等の活動実績
 - 3) 「COC+高専」に関する COC+サイトデザイン
 - 4) 「COC+高専」事業報告書（案）
 3. 「COC+高専」に関する平成 28 年度事業計画（案）

2.2 学生・保護者及び地域企業に対するアンケート

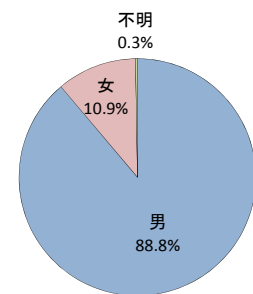
本アンケートは、在学生と保護者に対して、「就職に関する学生の意識調査」、「就職に関する保護者の意識調査」を行い、その結果を分析し、それらを基に、今後の地方創生事業の取り組みや学生の就職指導を行うことを目的として実施した。

① 学生に対する就職に関する意識調査結果

- ・対象：1～4年生全学科（回答数 770）

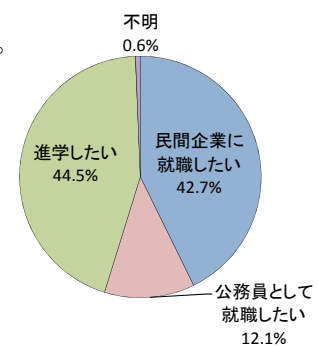
問 1 あなたの性別。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	男	684	88.8	89.1%
2	女	84	10.9	10.9%
	不明	2	0.3	
	N (%ベース)	770	100	768



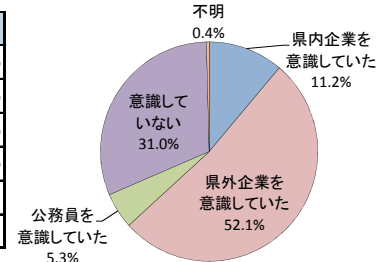
問 2 あなたは、高専卒業後の進路をどのように考えていますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	民間企業に就職したい	329	42.7	43.0%
2	公務員として就職したい	93	12.1	12.2%
3	進学したい	343	44.5	44.8%
	不明	5	0.6	
	N (%ベース)	770	100	765



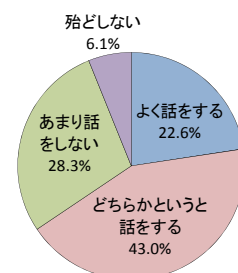
問 3 あなたは、高専に入学した際、将来の就職のことを意識していましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	県内企業を意識していた	86	11.2	11.2%
2	県外企業を意識していた	401	52.1	52.3%
3	公務員を意識していた	41	5.3	5.3%
4	意識していない	239	31.0	31.2%
	不明	3	0.4	
	N (%ベース)	770	100	767



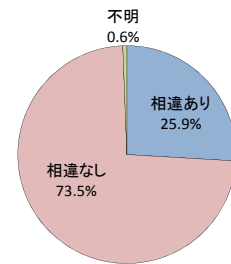
問 4 あなたは、親と“自分の将来の就職”について話したことがありますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	よく話をする	174	22.6	22.6%
2	どちらかというと話をする	331	43.0	43.0%
3	あまり話をしない	218	28.3	28.3%
4	殆どしない	47	6.1	6.1%
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	770	100	770



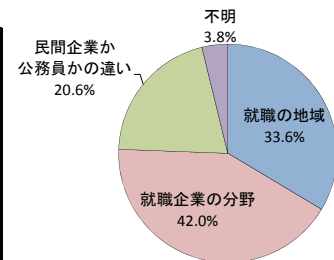
問 5 問 4で、「1. よく話をする 2. どちらかというと話をする」と答えた学生に聞きます。親との意見に相違がありましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%	(不明・非該当を除く)%
1	相違あり	131	17.0	25.9%	26.1%
2	相違なし	371	48.2	73.5%	73.9%
	不明	3	0.4	0.6%	
	非該当	265	34.4		
	N (%ベース)	770	100	505	502



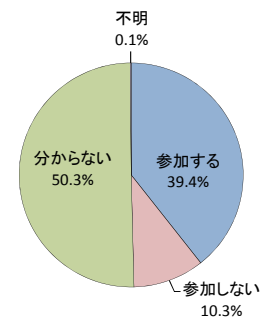
問 6 問 5で、「1. 相違あり」の学生に聞きます。何が違いましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%	(不明・非該当を除く)%
1	就職の地域	44	5.7	33.6	34.9%
2	就職企業の分野	55	7.1	42.0	43.7%
3	民間企業が公務員かの違い	27	3.5	20.6	21.4%
	不明	5	0.6	3.8	
	非該当	639	83.0		
	N (%ベース)	770	100	131	126



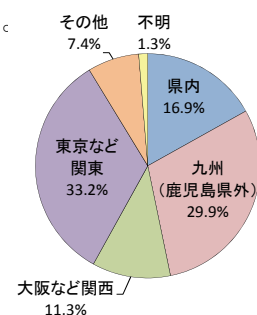
問 7 県内企業がインターンシップを実施すれば参加しますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	参加する	303	39.4	39.4%
2	参加しない	79	10.3	10.3%
3	分からない	387	50.3	50.3%
	不明	1	0.1	
	N (%ベース)	770	100	769



問 8 あなたが就職するとして、どの地域で最も働きたいですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	県内	130	16.9	17.1%
2	九州(鹿児島県外)	230	29.9	30.3%
3	大阪など関西	87	11.3	11.4%
4	東京など関東	256	33.2	33.7%
5	その他	57	7.4	7.5%
	不明	10	1.3	
	N (%ベース)	770	100	760

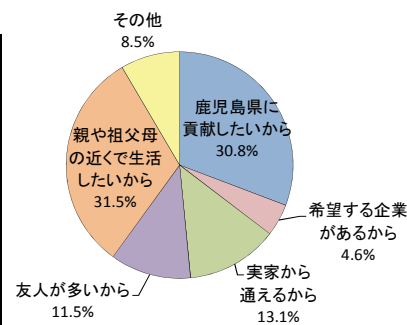


【その他】

- ・海外…15 件
- ・どこでもいい…11 件
- ・わからない、まだ決めていない…6 件
- ・特に希望なし…4 件
- ・県外ならどこでも…3 件
- ・日本…2 件
- ・中部…2 件
- ・都営、西日本全域、瀬戸内、北越、山梨、北、寒くないところ、ホンダがあるところ
…それぞれ1 件

問 9 問 8 で「1. 県内」と答えた学生に聞きます。その理由は何ですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%	(不明・非該当を除く)%
1	鹿児島県に貢献したいから	40	5.2	30.8	30.8%
2	希望する企業があるから	6	0.8	4.6	4.6%
3	実家から通えるから	17	2.2	13.1	13.1%
4	友人が多いから	15	1.9	11.5	11.5%
5	親や祖父母の近くで生活したいから	41	5.3	31.5	31.5%
6	その他	11	1.4	8.5	8.5%
	不明	0	0.0	0.0	
	非該当	640	83.1		
	N (%ベース)	770	100	130	130

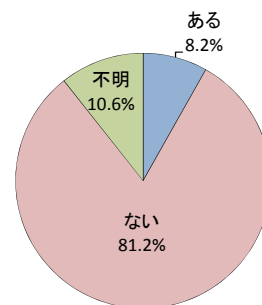


【その他】

- ・鹿児島が好きだから…2 件
- ・慣れているから
- ・なじみがあるから
- ・県外にそれほど興味がなく、県内の方が身近だから
- ・他県に出るのが面倒
- ・自分のやりたいことをしたいから
- ・地元の中学校で働きたいから
- ・人が多いのが苦手だから
- ・温泉があるから
- ・理由はない …それぞれ1 件

問 10 県内に就職したいと思う企業がありますか。あれば企業名を書いてください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	ある	63	8.2	9.2%
2	ない	625	81.2	90.8%
	不明	82	10.6	
	N (%ベース)	770	100	688

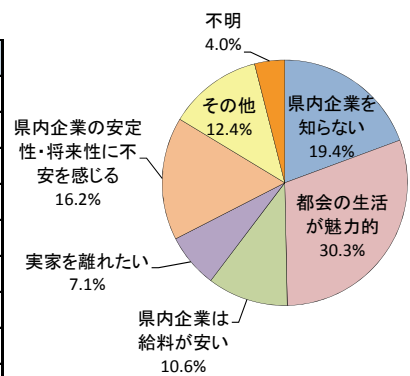


【ある（企業名）】

- ・京セラ…18 件
- ・鹿児島県庁…5 件
- ・市役所…3 件
- ・九州電力…2 件
- ・シンケン…2 件
- ・FANAC…2 件
- ・公務員がJR、JR東日本、松元機構、JR九州、NHK、新日本科学、ソニー、ソニーセミコンダクタ九州、ANA、トヨタ、トヨタ車体研究所、JAXSA、アルソック、安川電機、メタウォーター、岩崎産業、J×日鉱日石、日本ガス、東条設計、コアツ工業 …各1 件

問 11 県外に就職したい（問 8 で「1. 県内」を選ばなかった）学生に聞きます。
その理由は何ですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%	(不明・非該当を除く)%
1	県内企業を知らない	122	15.8	19.4	20.2%
2	都会の生活が魅力的	191	24.8	30.3	31.6%
3	県内企業は給料が安い	67	8.7	10.6	11.1%
4	実家を離れたい	45	5.8	7.1	7.4%
5	県内企業の安定性・将来性に不安を感じる	102	13.2	16.2	16.9%
6	その他	78	10.1	12.4	12.9%
	不明	25	3.2	4.0	
	非該当	140	18.2		
	N (%ベース)	770	100	630	605

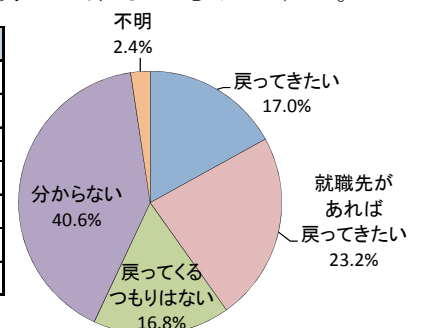


【その他】

- ・ 県外に就職したい企業があるから…13 件
- ・ 県内に就職したい企業があるから…12 件
- ・ 県外に出てみたい…10 件
- ・ 視野を広げるため…7 件
- ・ だれも知らない場所で自分の力で生活したい…4 件
- ・ なんとなく…4 件
- ・ 海外に行きたい…4 件
- ・ 特になし…4 件
- ・ 決めてない…2 件
- ・ 安定して働ければどちらでもいい…2 件
- ・ 都内に祖父母がいるため、地元に戻りたい、鹿児島県の政策が高齢者向けのばかりだから、友達が多くが県外就職だから …それぞれ 1 件

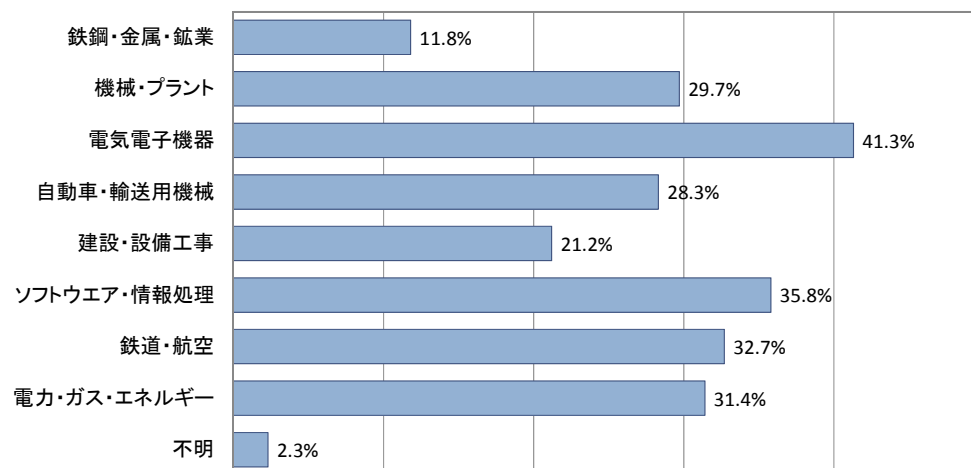
問 12 県外に就職したい学生に聞きます。いずれ地元（県内）に戻って来るつもりですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%	(不明・非該当を除く)%
1	戻ってきたい	107	13.9	17.0	17.4%
2	就職先があれば戻ってきたい	146	19.0	23.2	23.7%
3	戻ってくるつもりはない	106	13.8	16.8	17.2%
4	分からない	256	33.2	40.6	41.6%
	不明	15	1.9	2.4	
	非該当	140	18.2		
	N (%ベース)	770	100	630	615



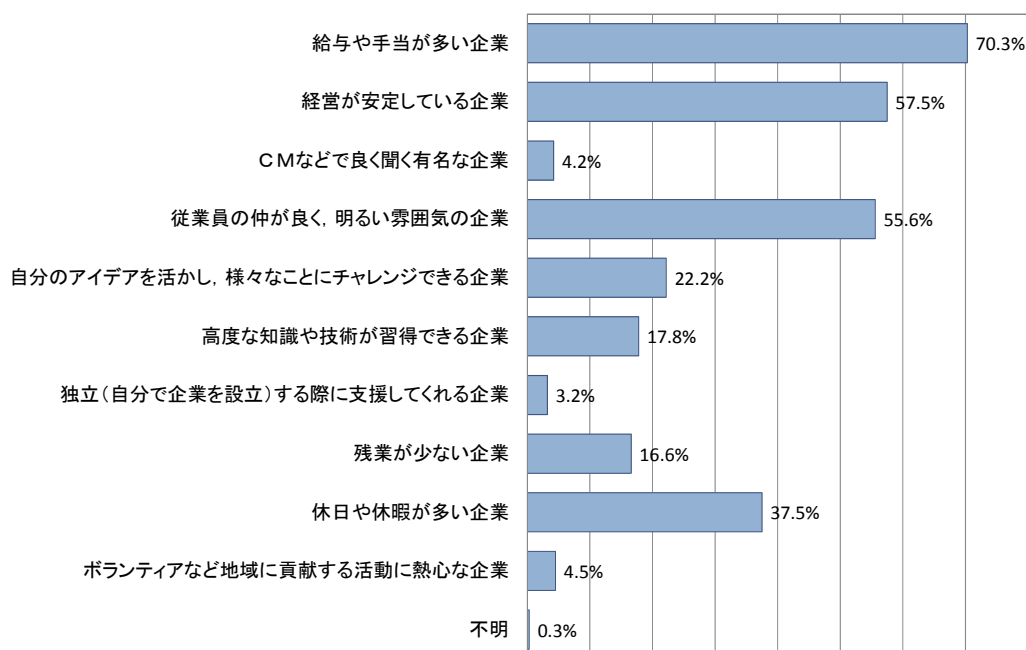
問 13 民間企業に就職するとして、以下のどの業界で働きたいですか。（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	91	11.8	12.1%
2	機械・プラント	229	29.7	30.5%
3	電気電子機器	318	41.3	42.3%
4	自動車・輸送用機械	218	28.3	29.0%
5	建設・設備工事	163	21.2	21.7%
6	ソフトウェア・情報処理	276	35.8	36.7%
7	鉄道・航空	252	32.7	33.5%
8	電力・ガス・エネルギー	242	31.4	32.2%
	不明	18	2.3	
	N (%ベース)	770	100	752



問 14 あなたは、以下のどの企業で働いてみたいと思いますか。（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	給与や手当が多い企業	541	70.3	70.4%
2	経営が安定している企業	443	57.5	57.7%
3	CMなどで良く聞く有名な企業	32	4.2	4.2%
4	従業員の仲が良く、明るい雰囲気のある企業	428	55.6	55.7%
5	自分のアイデアを活かし、様々なことにチャレンジできる企業	171	22.2	22.3%
6	高度な知識や技術が習得できる企業	137	17.8	17.8%
7	独立(自分で企業を設立)する際に支援してくれる企業	25	3.2	3.3%
8	残業が少ない企業	128	16.6	16.7%
9	休日や休暇が多い企業	289	37.5	37.6%
10	ボランティアなど地域に貢献する活動に熱心な企業	35	4.5	4.6%
	不明	2	0.3	
	N (%ベース)	770	100	768

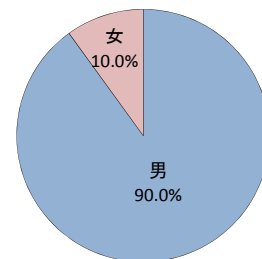


②保護者に対する就職に関する意識調査結果

- ・対象：1～4年生全学科保護者（回答数 371）

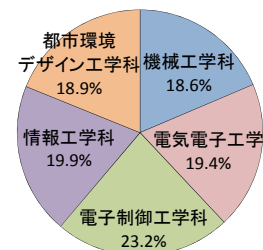
問1 ご子息の性別を教えてください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	男	334	90.0	90.0%
2	女	37	10.0	10.0%
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	371	100	371



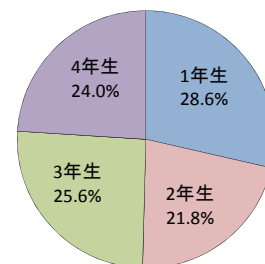
問2 ご子息の所属学科を教えてください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	機械工学科	69	18.6	18.6%
2	電気電子工学	72	19.4	19.4%
3	電子制御工学科	86	23.2	23.2%
4	情報工学科	74	19.9	19.9%
5	都市環境デザイン工学科	70	18.9	18.9%
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	371	100	371



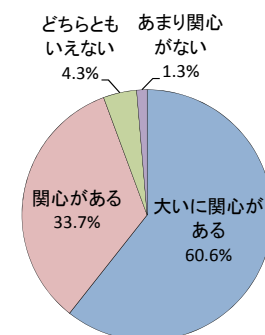
問3 ご子息の所属学年を教えてください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	1年生	106	28.6	28.6%
2	2年生	81	21.8	21.8%
3	3年生	95	25.6	25.6%
4	4年生	89	24.0	24.0%
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	371	100	371



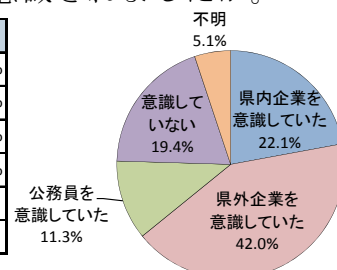
問4 ご子息の就職活動に、どの程度関心がありますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	大いに関心がある	225	60.6	60.6%
2	関心がある	125	33.7	33.7%
3	どちらともいえない	16	4.3	4.3%
4	あまり関心がない	5	1.3	1.3%
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	371	100	371



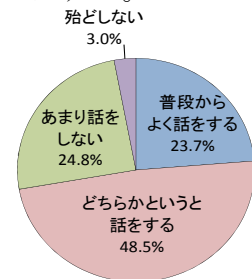
問5 ご子息の高専入学に際し、卒業後の就職のことを意識されましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	県内企業を意識していた	82	22.1	23.3%
2	県外企業を意識していた	156	42.0	44.3%
3	公務員を意識していた	42	11.3	11.9%
4	意識していない	72	19.4	20.5%
	不明	19	5.1	
	N (%ベース)	371	100	352



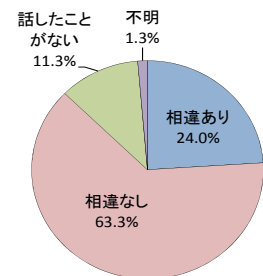
問 6 就職についてご子息と普段からよく話をするほうだと思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	普段からよく話をする	88	23.7	23.7%
2	どちらかというと話をする	180	48.5	48.5%
3	あまり話をしない	92	24.8	24.8%
4	殆どしない	11	3.0	3.0%
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	371	100	371



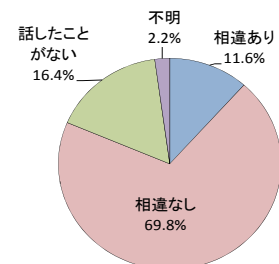
問 7 就職についてご子息と話をされたとき意見の相違がありましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	相違あり	89	24.0	24.3%
2	相違なし	235	63.3	64.2%
3	話したことがない	42	11.3	11.5%
	不明	5	1.3	
	N (%ベース)	371	100	366



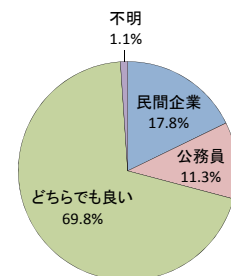
問 8 就職について夫妻で話をされたとき意見の相違がありましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	相違あり	43	11.6	11.8%
2	相違なし	259	69.8	71.3%
3	話したことがない	61	16.4	16.8%
	不明	8	2.2	
	N (%ベース)	371	100	363



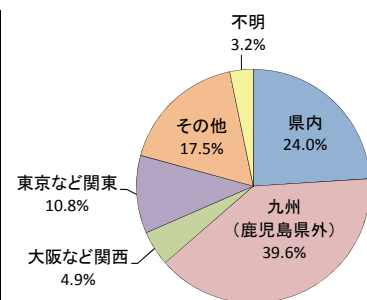
問 9 子どもの就職先として、希望するのはどちらですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	民間企業	66	17.8	18.0%
2	公務員	42	11.3	11.4%
3	どちらでも良い	259	69.8	70.6%
	不明	4	1.1	
	N (%ベース)	371	100	367



問 10 子どもの就職先として、どの地域が最も良いと思われますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	県内	89	24.0	24.8%
2	九州(鹿児島県外)	147	39.6	40.9%
3	大阪など関西	18	4.9	5.0%
4	東京など関東	40	10.8	11.1%
5	その他	65	17.5	18.1%
	不明	12	3.2	
	N (%ベース)	371	100	359

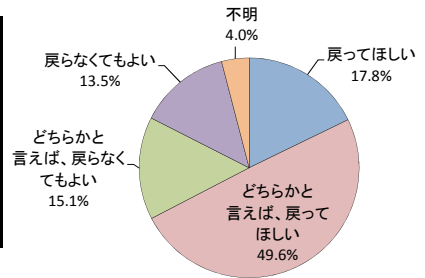


【その他】

- ・ 本人の希望するところ…25 件
- ・ どこでも…18 件
- ・ まだわからない…5 件
- ・ 中部…2 件
- ・ 特になし…2 件
- ・ 海外、出来るなら九州管内、西日本 …それぞれ 1 件

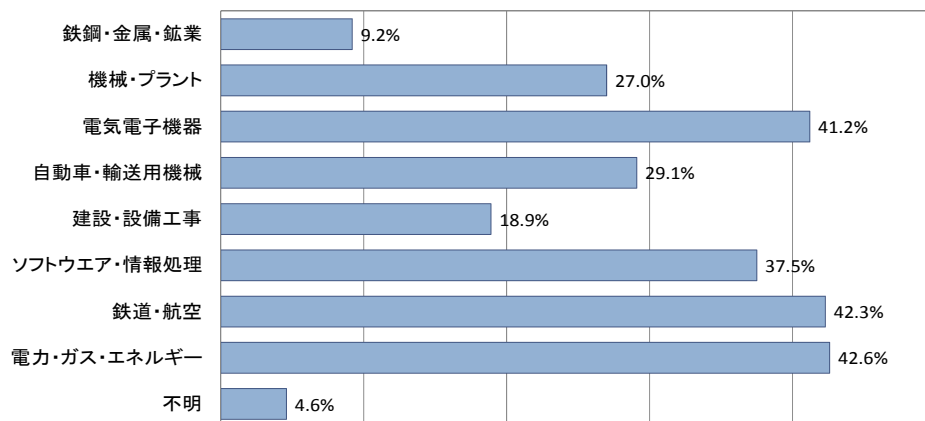
問 11 ご子息が就職後、いずれ地元（実家近く）に戻ってきてほしいと思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	戻ってほしい	66	17.8	18.5%
2	どちらかと言えば、戻ってほしい	184	49.6	51.7%
3	どちらかと言えば、戻らなくてもよい	56	15.1	15.7%
4	戻らなくてもよい	50	13.5	14.0%
	不明	15	4.0	
	N (%ベース)	371	100	356



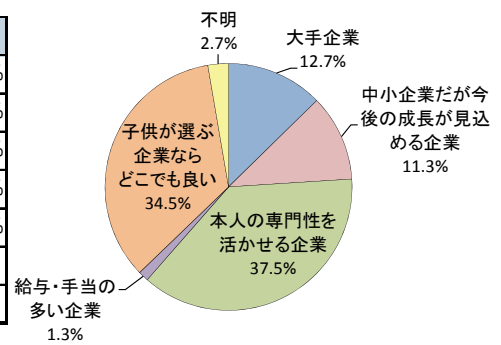
問 12 ご子息が就職する企業は、どのような業界が良いと思いますか。（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	34	9.2	9.6%
2	機械・プラント	100	27.0	28.2%
3	電気電子機器	153	41.2	43.2%
4	自動車・輸送用機械	108	29.1	30.5%
5	建設・設備工事	70	18.9	19.8%
6	ソフトウェア・情報処理	139	37.5	39.3%
7	鉄道・航空	157	42.3	44.4%
8	電力・ガス・エネルギー	158	42.6	44.6%
	不明	17	4.6	
	N (%ベース)	371	100	354



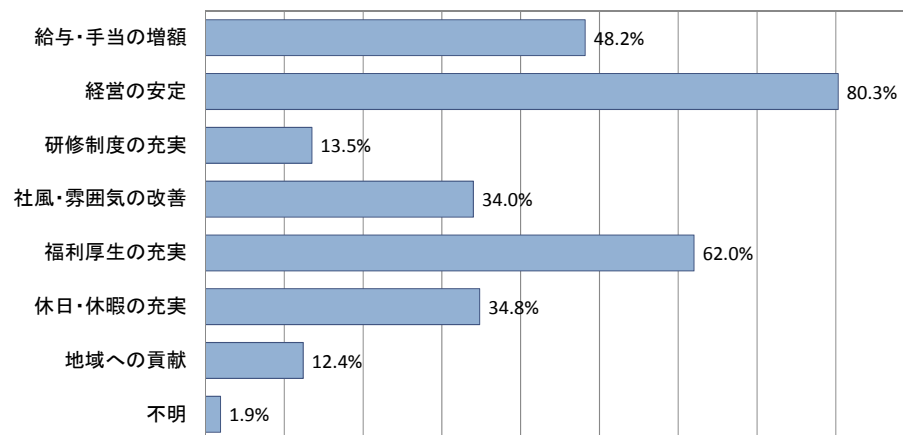
問 13 ご子息の就職先として、どのような企業が最も良いと思われますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	大手企業	47	12.7	13.0%
2	中小企業だが今後の成長が見込める企業	42	11.3	11.6%
3	本人の専門性を活かせる企業	139	37.5	38.5%
4	給与・手当の多い企業	5	1.3	1.4%
5	子供が選ぶ企業ならどこでも良い	128	34.5	35.5%
	不明	10	2.7	
	N (%ベース)	371	100	361



問 14 ご子息が県内企業に就職するとして、どのようなことを望みますか。
(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	給与・手当の増額	179	48.2	49.2%
2	経営の安定	298	80.3	81.9%
3	研修制度の充実	50	13.5	13.7%
4	社風・雰囲気の改善	126	34.0	34.6%
5	福利厚生の充実	230	62.0	63.2%
6	休日・休暇の充実	129	34.8	35.4%
7	地域への貢献	46	12.4	12.6%
	不明	7	1.9	
	N (%ベース)	371	100	364



2.3 特別講座・企業見学・体験学習・卒業研究発表会

地域企業や公共機関、地方自治体等の有識者・技術者を招聘して、学生に技術講演、ゼミ指導、施設見学、体験学習などを実施し、地元企業を理解してもらうために“地域志向特別講座”を実施した。

主な活動内容は、集合教育形式やゼミ形式による講義・講演、企業見学、体験学習、研究会の開催を以下のとおり実施した。

地域志向特別講座 実施一覧

No	日 時	特別講座 (形 式)	対象学科等	企業・講師等	場 所
1	2015/11/18(水) 12:55~14:25	講義・講演	電気情報システム工学専攻1年	(株)YPK 開発部 岩田 保 氏	鹿児島高専 共同研究・受託研究室
2	2015/11/20(金) 14:35~16:05	ゼミ形式	電気電子工学科 (楠原研究室)	(株)YPK 開発部 岩田 保 氏	鹿児島高専 テクノセンター2階
3	2015/11/26(木) 15:00~16:30	ゼミ形式	機械工学科 (椎研究室)	名古屋大学 研究員 岡村 鉄兵 氏	鹿児島高専 椎研究室
4	2015/11/27(金) 15:00~16:30	講義・講演	機械工学科5年	名古屋大学 研究員 岡村 鉄兵 氏	鹿児島高専 機械工学科5年教室
5	2015/12/8(火) 9:15~10:15	講義・講演	電気電子工学科2年	(株)A・R・P 取締役ソリューション事業本部長 長尾 孝 氏	鹿児島高専 電気電子工学科2年教室
6	2015/12/11(金) 11:00~12:00	講義・講演	電気電子工学科5年	(株)A・R・P メカトロニクスデザイン部 パワエレ技術グループプロジェクト マネージャー 石原 誠一 氏	鹿児島高専 電気電子工学科5年教室
7	2016/1/14(木) 8:35~16:05	企業見学	本科1年生(200名)	KTC会員企業10社	各KTC会員企業 (1年生地域企業見学会)
8	2016/1/14(木) 14:30~16:10	研究会	本科4年生、専攻科1年生(200名)	KTC会員企業16社	鹿児島高専 第一体育館 (高専生のための地域企業研究会)
9	2016/2/17(水) 14:30~15:30	企業見学	電子制御工学科3年	パナソニックデバイス SUNX九州(株)	パナソニックデバイス SUNX九州(株)
10	2016/2/17(水) 15:30~16:30	講義・講演	機械工学科3年	(株)YPK 今重 善宏 氏	鹿児島高専 機械工学科3年教室
11	2016/2/17(水) 15:00~16:00	企業見学	電気電子工学科2・3年	霧島木質発電(株)	霧島木質発電(株)
12	2016/2/18(木) 12:55~14:25	講義・講演	電気電子工学科3年	霧島木質発電(株) 益山 弘人 氏、柿元 学 氏	鹿児島高専 電気電子工学科3年教室
13	2016/2/18(木) 12:55~14:25	講義・講演	情報工学科3年	(株)ペルテ 代表取締役社長 石塚 安弘 氏	鹿児島高専 情報工学科3年教室
14	2016/2/18(木) 14:35~16:05	講義・講演	情報工学科2年	(株)ペルテ フェニックスセンター グループリーダー 碓山 晋吾 氏	鹿児島高専 情報工学科2年教室
15	2016/2/18(木) 12:55~14:25	講義・講演	電子制御工学科4年	(株)キラ・コーポレーション鹿児島研究所 グループ長 松元 健太 氏	鹿児島高専 電子制御工学科4年教室
16	2016/2/24(水) 12:55~16:05	企業見学	都市環境デザイン工学科2年	鎌田建設(株) (株)ガイアテック	しらさぎ橋(霧島市隼人町) みゆき生コン工場(霧島市国分)
17	2016/2/25(木) 9:00~16:30	研究会	情報工学科5年		始良市文化会館「加音ホール」 (卒業研究発表会)

講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 27 年 11 月 18 日（水） 13：00 ～ 14：30	
実施場所	地域共同テクノセンター2階共同研究・受託研究室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気情報システム工学専攻 1 年 12 名	
担 当 者	電気電子工学科 教授 楠原 良人	所属：株式会社 YPK 役職：開発部マネージャー 氏名：岩田 保 氏
実施内容	専攻科の学生に、通信システムの専門企業で、霧島市にある(株)YPK の開発環境、製品開発の手順、製品評価、製品リサーチなどについて講演して頂いた。同社は、(株)ユピテルの鹿児島事業所で、本社を東京港区芝浦に置く企業で、高周波・無線通信技術、マイクロ波技術を専門とするメーカーである。 製品は、ドライブレコーダ、ナビゲーションシステム、GPS モニターなど ICT 活用製品が多いことから、電気電子工学科、情報工学科から進学してきた電気情報システム工学専攻の学生に最適と考えられたことから、講演をお願いした。講演タイトルは、「製品開発技術について(製品開発から製造販売まで)」であるが、高専では、PBL 科目など、問題解決型、開発技術を学習する科目もあり、熱心に受講していた。バスタブ曲線の講義など、通常の授業では講義しない信頼性工学の内容もあり実務レベルでの講義となり、有意義であった。	



講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

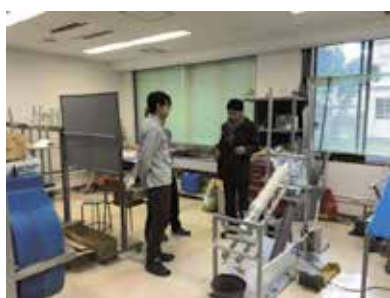
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 27 年 11 月 20 日（金）13：00 ～ 14：30	
実施場所	地域共同テクノセンター2階 相談室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 5 年 2 名	
担 当 者	電気電子工学科 教授 楠原 良人 助教 栢 健一	所属：株式会社 YPK 役職：開発部マネージャー 氏名：岩田 保 氏
実施内容	本実施形態は、地元企業で活躍している開発・製造技術者を招聘し、取り組むべき課題を工学的観点から少人数のゼミ形式でディスカッションし、技術的課題を捉えることを目的に行っているものである。このゼミ指導は、(株)YPK 殿とともに、平成 27 年度国立研究開発法人科学技術振興機構（略称 JST）の採択を受けた課題番号 MP27215667940、課題名：光変調による非接触式火山灰計測センサとモニタリングシステムの開発）の研究内容の検証と現場からのアドバイスを行って頂いているものである。 写真は、電気電子工学科の卒業研究（降灰センサの共同開発）において、研究進捗、課題点について、開発マネージャーの岩田氏からゼミ形式でディスカッションし、アドバイス指導を受けている風景である。このように研究を検証することで、学生は現場の開発技術を肌身で感じ、実際の研究開発とは何かを知るきっかけとなるものである。	



講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 27 年 11 月 26 日（木） 15：00 ～ 17：00	
実施場所	機械工学科棟 1 階 椎研究室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 5 年および機械・電子システム工学専攻 2 名	
担 当 者	機械工学科 准教授 椎 保幸	所属：名古屋大学大学院環境学研究科 役職：研究員 氏名：岡村 鉄兵 氏
実施内容	現在、本校機械工学科の椎准教授の研究室では、マイクロ水車に関する研究を行っており、上掛け水車、下掛け水車および螺旋水車など多様な水車について研究を行っている。その中で、螺旋水車については研究を開始したばかりで分からない点も多く、公開されている研究論文や書籍を参考にしながら実験装置の製作や解析方法の検討を行っている段階である。 そうした中、螺旋水車を研究しておられる名古屋大学の岡村氏をお招きし、技術的な指導・助言を得る機会を頂いた。具体的には、研究室所属の専攻科生および卒研生に対し、水車を設計・製作する上での注意点や解析の方法など専門的に詳しく教えて頂いた。学生の質問に対しても丁寧な対応をして頂くなど、今回のゼミは学生および教員にとって大変有意義なものとなった。 最後に、大変お忙しい中鹿児島までお越し頂いた岡村氏、ならびに本プログラムでご支援を頂いた本校 COC+の関係各位に感謝申し上げます。	



講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 27 年 11 月 27 日（金） 15：00 ～ 17：00	
実施場所	機械工学科棟 3 階 機械工学科 5 年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 5 年 45 名	
担 当 者	機械工学科 准教授 椎 保幸	所属：名古屋大学大学院環境学研究科 役職：研究員 氏名：岡村 鉄兵 氏
実施内容	本講演は、機械工学科 5 年の専門科目である「エネルギー機械Ⅱ」の授業の一部として実施したものである。当科目は流体機械（ポンプ、水車、風車など）を扱ったエネルギー工学全般に関する内容であり、その中で風力発電や水力発電など自然エネルギーを利用した発電についても学修するため、実際に国内や海外でマイクロ水車を実用化した実績のある方にお越し頂き、それにまつわる様々な専門的な話を聞くことは大変意義深い。 そこで、今回は、マイクロ水車、特に螺旋水車の開発において第一線で活躍されている名古屋大学の岡村氏をお招きし、主に水力発電に関する特別講演をして頂いた。講演の内容は、螺旋水車の基本原理から構造、据え付け、性能評価までをいくつかの実例を交えながら教えて頂いた。丁寧な説明に学生も熱心に聞き入り、講演後には学生からたくさんの質問が出されるなど大いに盛り上がった。 最後に、多忙の中特別講演にお越し頂いた岡村氏には深く感謝申し上げます。	



講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 27 年 12 月 8 日（火）9：15 ～ 10：15	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 電気電子工学科 2 年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 2 年生	
担 当 者	電気電子工学科 教授 楠原 良人	所属：株式会社 A・R・P 役職：取締役ソリューション事業本部長 氏名：長尾 孝 氏
実施内容	講義・講演の実施形態として、集合教育形式の講義を行っているものである。地元企業の具体的な事業事例を知り、一般科目・専門科目で修得した知識・技術と融合し、地域企業に興味を持つことを目的に行っているものである。本講義は、計測制御装置の開発が専門の(株)ARP にお願ひしたものである。対象者は電気電子工学科 2 年生で、講義テーマは「高専生に求める技術者像」である。 2 年生では、専門教科の学習は少ないが、高専教育における「早期創造教育」の観点から、企業現場について、さらに、技術者像について講演して頂くのは、学生にとって、有効である。 講演は、会社の事業紹介、製品紹介、就業の心得、技術者になるにあたっての心構えなど、将来的に社会人として必要な素養なども講義して頂いた。学生からは、「製品になるまでの苦労は何でしょう」などの質問が出ていた。	



講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 27 年 12 月 11 日（金）11：00 ～ 12：00	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 電気電子工学科 5 年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 5 年生	
担 当 者	電気電子工学科 教授 楠原 良人	所属：株式会社 A・R・P 役職：メカトロニクスデザイン部パワエレ 技術グループプロジェクトマネージャー 氏名：石原 誠一 氏
実施内容	本講義・講演は、(株)ARP のパワーコンディショナの開発技術について、講義とパワーコンディショナの評価装置による体験実習を行ったものである。 対象者は電気電子工学科 5 年生である。その内容は、パワーエレクトロニクス、電子回路などの専門科目に関係した内容である。 講演では、パワーコンディショナのコンバータ部、インバータ部、系統連系部などの動作について説明があり、パワーコンディショナの設計・開発のイロハを講義して頂いた。学生は、科目名：パワーエレクトロニクスで、半導体デバイスの損失、AC/DC コンバータについて授業で講義したところであり、興味深く聴講していた。 講義の後、実際に開発されたパワーコンディショナ評価装置で、模擬電源を使用した系統連系の体験実習を実施した。実際の装置の体験であったことから、学生自ら作動させて、オシロスコープなどの計測器を使い、波形観測し、パワーコンディショナの機能を確認することができたことは、実学融合教育の一環として有意義であった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 1 月 14 日（木）14：30 ～ 16：10	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 第一体育館	
実施形態	地域企業研究会	
対象学生	本科 4 年生、専攻科 1 年生 約 200 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	都市環境デザイン工学科 教授 西留 清	参加企業：KTC 会員企業 16 社 (株)ソフト流通センター、アルバック九州(株)、エイムネクスト(株)、コアツ工業(株)、(株)トヨタ車体研究所、(株)九州タブチ、三豊機工(株)、(株)大翔、日本特殊陶業(株)、(株)藤田ワークス、(株)コアガス日本、マトヤ技研工業(株)、鎌田建設(株)、霧島木質発電(株)、(株)A・R・P、(株)ペルテ
実施内容	食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラムの中で、鹿児島高専は平成 28 年 1 月 14 日（木）に、本校第一体育館において、錦江湾テクノパーククラブ（KTC）会員企業 16 社による「高専生のための地域企業研究会」のセミナーを開催しました。錦江湾テクノパーククラブは一般会員 55 社と 16 団体で組織されています。 今年度で 3 回目となる企業セミナーは、就職活動解禁前を考慮し、採用情報を一切含めない形で地域企業を知ることにより重点を置き、『地域企業研究会』として開催しました。平成 29 年 3 月卒業予定の本校学生（本科 4 年生・専攻科 1 年生約 200 名）を対象とした本セミナーの内容は KTC 会員企業がブースで事業内容や実績を PR しました。学生たちが真剣に聞き入っている姿が見受けられ、今後の就職活動にとって非常に有意義な機会となりました。 鹿児島高専では、就職を希望する学生の 8 割以上が県外に就職しているのが現状であるが、セミナー終了後のアンケート結果から県内就職を希望する学生の増加が期待できます。参加頂いた企業様、並びにご協力いただいた関係者の皆様方に、深く感謝申し上げます。	



講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 1 月 14 日（木）8:30 ～ 16:30	
実施場所	日本特殊陶業株式会社鹿児島宮之城工場、 アサダメッシュ株式会社鹿児島工場	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 1 年生	
担 当 者	担任：田中 智樹 教員 機械工学科： 南金山 裕弘 教員	所属：日本特殊陶業（株） 役職：総務部 管理課 課長 氏名：青木 伸一 氏 所属：アサダメッシュ（株） 役職：管理部 総務課 課長 氏名：永田 義秀 氏
実施内容	・日本特殊陶業株式会社 セラミックの原料生成から焼成までの一連の加工並びに金属の塑性加工など興味のある製造過程を見ることができて良かった。特に驚いたのは、炉が他の工程と同じ作業エリアに置かれており、近くに寄ってもほとんど熱が感じられなかったこと。製造過程を間近で見られたのは良かったが、作業音が大きくて説明の声が聞き取りづらかった。 ・アサダメッシュ株式会社 ステンレスメッシュの細かさは知っていたが、その製造が基本的には機（はた）織りと同じであることには驚かされた。 製造現場がクリーンルームの中で、ガラス越しでの見学のため、奥の方や機械類を間近に見ることができなかったのは残念。デモ機でも良いので近くで見られると良い。 1 年生でもあり、まだ機械工学関係の知識も少ないので、エンドユーザーとして、日常生活で目にするような完成品などの組み立て工程などが見られる企業の方が良いのかも知れない。完成品としての部品あるいはその部品の一部を製造する工程では、その製品の重要性などが十分に理解できず、質問するほどの理解度は得られなかったようである。地元：鹿児島県に世界トップレベルの企業・工場があることには驚いていたようで、少なくともその点では興味を持って見学していたことでは、今回の見学会は有益であった。  	

講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 1 月 14 日（木）8:30 ～ 17:00	
実施場所	アルバック九州株式会社、株式会社 YPK	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 1 年生	
担 当 者	担任：鞍掛 哲治 教員 電気電子工学科：楠原 良人 教員	所属：アルバック株式会社 所属：YPK(株) 役職：経営統括本部長 役職：代表取締役社長 氏名：末重公德氏 氏名：高木紀氏
実施内容	1) アルバック九州株式会社 末重本部長を中心に総勢約 20 名の社員で対応して頂き、有難かった。1 年生ということで、平易に説明をして頂いた。分野的に真空技術と半導体技術であったが、学生には高学年の専門で学ぶ旨を車中で事前説明して見学した。事業内容の説明が分かりやすく、また、鹿児島高専卒業生の方が説明され、準備の大変さが伝わってきた。最後に、真空の実験を学生参加で行って頂き、学生は、現場の方が教えることで興味深く聞いていた。 2) 株式会社 YPK 会社概要説明の後、高木社長自ら技術者の心得を話して頂いた。通信システムの身近な製品説明と高専では教えられない生涯年俸の話などとして頂き、学生も興味を持って聞いていた。後半では、岩田開発マネージャーが製品開発の講義をして頂き、学生も興味を持ったようで、質問も出た。最後に製品紹介と実験をして頂き、興味深いものとなった。両社ともに鹿児島高専への期待が感じられる対応であったので、今後のお付き合いの重要性を再認識した次第である。	
	   	

講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 1 月 14 日（木）8:30 ～ 14:30	
実施場所	株式会社藤田ワークス、株式会社九州タブチ	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 1 年生	
担 当 者	担任：町 泰樹 教員 電子制御工学科：島名 賢児 教員	所属：株式会社藤田ワークス 役職：企画支援グループ 氏名：濱畑 氏 所属：株式会社九州タブチ 役職：総務部総務課 氏名：末吉、竹内 氏
実施内容	・株式会社藤田ワークス 特殊金属の板金加工では日本一である企業であり、最新機器を導入するなど、新たな技術、グローバルな仕事に積極的に取り組んでいる地元でも特に注目されている企業を学生が見学した。 20 名ずつの班分けて工場内を見学し、稼働中の最新のレーザー加工機や溶接装置、プレス加工機などを間近に見ることができ、学生にとっても貴重な見学になったと思われる。また、地元これほどの高い技術を持ち、世界を相手に仕事をしている中小企業があることを知ることができたのは、特に地元就職を希望する学生にとっては非常に有益な機会となったと考えている。 ・株式会社九州タブチ 県外からの地元誘致企業として最初に鹿児島県内に立地した企業として、その長い歴史と信頼の製品作りを支えている社員の仕事を間近に見ることができ、さらに日常生活では不可欠な水道部品を加工する機械を見学することができた。さらに世界の中で日本の水供給技術がとても優れていることを知ることができ、学生にとっても日頃簡単に手に入れることができる身近な水に対する意識も変わったのではないかと思う。 また、東日本大震災において仮設住宅で使われている水道部品の製造に地元の企業が貢献していることを知ることができ、地元企業に対する意識も変わったのではないかと考えている。	



講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 1 月 14 日（木）8:30 ～ 16:10	
実施場所	マトヤ技研工業株式会社、株式会社トヨタ車体研究所	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 1 年生	
担 当 者	担任：熊谷 博 教員 情報工学科：新徳 健 教員	所属：マトヤ技研工業株式会社 役職：専務代表取締役 氏名：豊増 敏夫 氏 所属：株式会社トヨタ車体研究所 役職：業務統括部 総務室 氏名：瀬戸口 隆二 氏
実施内容	・マトヤ技研工業株式会社 本校の教員と共同で開発をしている、という話が聞けたのは学生にとってもよかった。 （機械加工製品の製作会社でも情報系の仕事がある認識を持てる。）写真にあるように、ゲーム用のカメラを用いた画像認識に関するシステムでは特に興味を持っていたようであった。 工場を見学する際にスペースが狭かったために説明が後ろのほうの学生は説明が聞こえづらく、対象物も見にくかったので、2 班に分けるなどしたほうが良かった。 ・株式会社トヨタ車体研究所 卒業生が在籍していると、「自分たちでも名前を知っている会社に入れるかもしれない」というモチベーションにつながると思うのでよかった。 自動車の制御にもさまざまな情報技術が用いられていることを知って驚くとともに興味深く観察していた。 情報工学科卒の方が在籍していたので、その方の話を聞く機会があればよりよかった。	
	 	

講義・講演・工場見学等報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 1 月 14 日（木）8:30 ～ 16:00	
実施場所	株式会社コーアガス日本（南日本ガス株式会社）、鎌田建設株式会社	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 1 年生	
担 当 者	担任：松浦 将國 教員 都市環境デザイン工学科： 山田 真義 教員	所属：南日本ガス株式会社国分工場 役職：工場長 氏名：川床 政幸 氏 所属：鎌田建設株式会社 役職：専務取締役、土木部長 氏名：鎌田 安典 氏、岡元 靖志 氏
実施内容	・株式会社コーアガス日本(南日本ガス株式会社) ガス全般の話を聞くことやガス製造現場（LP ガスから都市ガス）を見学でき、大変良かったと思う。旧国分市に供給しているガス配管を実際に見ることやガス配管を埋設する方法なども学生にとって勉強になったと考えられる。 ・鎌田建設株式会社 地元の総合建設業（土木、建築）の企業説明を聞く機会は良いと感じた。 また、霧島市庁舎の杭工事、しらさぎ橋についても普段見学することのできないエリアを見学させて頂き、貴重な体験をすることができた。 霧島市庁舎は、上部構造の建築工事が始まってから改めて見学したいと感じた。 今回見学させて頂いた 2 社は鹿児島県内の企業であり、地域に密着した事業を行っている。参加学生も地元企業が活躍しているところを肌で感じ取っていた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 2 月 17 日（水）14：30 ～ 15：30	
実施場所	鹿児島県南さつま市加世田武田 15220-1	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 3 年生	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 宮田 千加良 講師 福添 孝明 技術職員 新屋敷 一也	所属：パナソニックデバイス SUNX 九州(株) 役職：執行役員 生産統括部・ファイバ商品部 担当 氏名：外園 統明 氏
実施内容	上記日時に、電子制御工学科 3 年 40 名が、パナソニックデバイス SUNX 九州株式会社の工場を見学させていただいた。まず外園執行役員が、製造商品、物流等会社概要を説明された後、3 班に分かれ各担当の方が引率して、センサ等の製造ラインや SMT（表面実装装置）等を説明しながら案内して下さった。 ロボットによるセッティングや作業者によるセッティング・組み立てなど、多くの作業者が効率よく作業している生産現場を見学させていただいた。また自社で生産しているセンサなどを生産現場で使用し、手順どおりに効率よく作業できる環境の整備や改善活動についても紹介して下さった。 その後、食堂に戻り質疑応答が行われた。限られた時間の中、質疑も数件あり、関心をもって見学ができたと感じた。本工場見学は、地方推進事業の一環として行ったもので、地元企業への関心を膨らます一助となったのではないかと考える。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 2 月 17 日（水）15：30 ～ 16：30	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校専攻科棟共用教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 3 年 41 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 講師 白石 貴行	所属株式会社 YPK 役職：技術開発 氏名：今重 善宏 氏
実施内容	【日時】平成 28 年 2 月 17 日（水）15：30～16：30 【場所】鹿児島工業高等専門学校専攻科棟共用教室 【学生の人数】機械工学科 3 年 41 名 【対応していただいた企業の方】 今重善宏様、YPK 株式会社に勤務。都城工業高等専門学校卒業後、日本電子株式会社にて走査型プローブ顕微鏡などの設計開発に従事。その後、YPK 株式会社にドライブレコーダーの電気系設計開発に従事。 【講義内容】 YPK 株式会社の概要説明と、高専を卒業してから自身関わってこられた設計開発業務について、体験を元にお話してくださった。 【学生の反応・教員の所感】 地元の企業について感心が高まっていた。自分が何を大事にして働くべきか考える良い機会になった。進路や職種について具体的に考えることができるきっかけとなったようだ。質疑応答が盛んで学生たちの質問が途切れること無く続き、時間切れになるほどであった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 2 月 18 日（木）12：55 ～ 14：25	
実施場所	鹿児島高専情報工学科 3 年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 3 年 36 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科 教授 玉利 陽三	所属：株式会社ペルテ 役職：代表取締役社長 氏名：石塚 安弘 氏
実施内容	2 月 18 日（木）12：55 から 14：25 に本校情報工学科 3 年の教室にて本学科 3 年生 36 名に対して宮崎に開発拠点を持たれている株式会社ペルテ社長の石塚様に地域企業の紹介から現在の IT 業界の構造ならびに就活時の注意点に関して講演して頂いた。業界の構造から就活時の企業選択時の注意事項等、就職活動を 1 年後に控えた学生にとって有意義なお話を頂いた。さらに、東京から離れていても IT 業界は、特に問題はなく仕事ができることもお話して頂き、地元でも十分働けることを学生は知ることができたと思われる。また、これまで県外に就職しようと考えていた学生が地元の企業についても調査して地元への就職、地元に貢献したい旨の感想を持つものも出てきている。 今回のように、企業の方々の生の声を聞くことにより、今後の学生生活の過ごし方も変わるような意義のあるご講演であり、私教員としても今後の就職指導の際の参考になりました。将来、少しでも地元の企業に就職して地元を盛り上げられる人材が出ることを願っております。  	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 2 月 18 日（木）14：35 ～ 16：05	
実施場所	鹿児島高専情報工学科 3 年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 2 年 42 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科 教授 玉利 陽三	所属：株式会社ペルテ フェニックスセンター 役職：グループリーダー 氏名：碓山 晋悟 氏
実施内容	2 月 18 日（木）14：35 から 16：05 に本校情報工学科 2 年の教室にて本学科 2 年生 42 名に対して宮崎に開発拠点を持つ株式会社ペルテフェニックスセンターグループリーダーの碓山様に IT 業界の話から地域企業の紹介、就活時の注意点に関して講演して頂いた。特にご自分の体験談を踏まえてお話を頂いた。さらに、東京から離れていても IT 業界は、特に問題はなく仕事ができることもお話して頂き、地元でも十分働けることを学生は知ることができたと思われる。就職活動を 2 年後に控えた学生にとって、企業の方々の生の声を聞くことにより今後の学生生活の過ごし方を一変してもらえるような貴重なお話であったと思われる。さらに私教員にとっても、今後の就職指導の際に参考になる有意義なご講演でした。 将来、少人数でも地元就職して、地元で貢献できる人材が出てくることを切に願っております。  	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 2 月 18 日（木）12：55 ～ 14：25	
実施場所	電子制御工学科 4 年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 4 年 42 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 准教授 島名 賢児	所属：株式会社キラ・コーポレーション 鹿児島研究所 役職：グループ長 氏名：松元 健太 氏
実施内容	平成 28 年 2 月 18 日に電子制御工学科 4 年の教室において 42 名（1 名欠席）に対して株式会社キラ・コーポレーション鹿児島研究所のグループ長である松元健太氏から「CAE 解析による材料強度の検証」というタイトルで講演があった。キラ・コーポレーション鹿児島研究所が進めている CAE による工作機械の最適設計において重要な技術となる CAE について基礎から応用までの講演があった。さらに解析手順における材料学の知識の必要性、材料力学による簡易強度計算についてなどの講演があった。 学生たちは 4 年生になるまでに材料力学や材料学などを学んできたが、実際に機械を設計する上でこれまで学んできたことがどのように生きてくるのかを少しでも理解したのではないかと感じた。また、高専と 10 年以上共同研究を進めている企業の研究所が地元鹿児島にあることを知り、もっと地元立地する様々な企業について知りたくなったのではないかと感じた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 2 月 24 日（水）13：00 ～ 14：30	
実施場所	株式会社ガイアテック みゆき工場	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 2 年 36 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	都市環境デザイン工学科 教授 池田 正利	所属：株式会社ガイアテック みゆき工場 役職：執行役員検査部長 氏名：瀬戸口 悟 氏
実施内容	・ 見学日時：平成 28 年 2 月 24 日 ・ 場所：ガイアテックみゆき工場（霧島市） ・ 移動手段：大型バス 1 台 ・ 学生人数：35 名 ・ 見学内容： ガイアテックみゆき工場の瀬戸口氏より、みゆき工場概要の説明を受けた。その後 2 班に分かれて、本校 OB から工場の各工程の説明を受けた。 学生はコンクリートを座学で学習しただけだったため、実際の製造工程を見学することができ、とても真剣に説明を聞いていた。 今回の工場見学を通して、地元の企業で OB が活躍している姿や、座学で学習したことをイメージすることができ、大変有意義な見学となったと考える。	



写真 見学の様子

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 2 月 24 日（水）15：00 ～ 16：00	
実施場所	コーアツ工業株式会社	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 2 年 36 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	都市環境デザイン工学科 教授 池田 正利	所属：コーアツ工業株式会社 役職：土木本部 技術部兼調査室 部長代理 氏名：胡摩窪 隆二 氏
実施内容	・ 見学日時：平成 28 年 2 月 24 日 ・ 場所：しらさぎ橋建設現場(霧島市) ・ 移動手段：大型バス 1 台 ・ 学生人数：35 名 ・ 見学内容： コーアツ工業の安達氏(本校 OB)よりしらさぎ橋の工事概要の説明を受けた。その後、実際に橋桁の上部と橋桁内部に入り、しらさぎ橋の施工方法や橋の機能について説明を受けた。 学生は橋梁の建設現場を見るのが初めてで疑問に思ったことをすぐ質問し、理解を深めていった。また、技術力が高い企業が県内にあることを知り、驚いていた。 今回の建設現場を通して、今後の学習の手助けになるとともに高い技術力を持つ地元の企業を知ることができ大変有意義な見学となったと考える。	



写真 見学の様子

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 2 月 25 日（木）8：45 ～ 16：30	
実施場所	始良市文化会館「加音ホール」	
実施形態	卒業研究発表会	
対象学生	情報工学科 5 年 38 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科 准教授 武田 和大	
実施内容	本校情報工学科 5 年生の卒業研究発表会を始良市文化会館「加音ホール」にて開催し、本校情報工学科 3, 4 年生、教職員、地元企業の技術者、自治体、学校関係者、保護者ら約 300 名が参加した。 開会挨拶で丁子校長より「素晴らしい会場で卒業研究発表が行えることや地元企業の技術者等が聞きに来て頂いているという状況を理解して発表を行っていただきたい」と発表者を激励した。また、「地元企業との共同研究や特許取得などを目指して今後卒業研究に取り組んでもらいたい。」と在校生にも期待のエールを送った。最後に、全学に展開して、地元企業等との連携強化に繋げたい考えを示した。 その後の笹山始良市長の挨拶では「高専が取り組んでいる地方創生(COC+)事業に全面的にサポートしていきたい」と心強いお言葉をいただいた。 卒業研究発表会では、実際に地元の企業に本校のシーズを紹介する良い機会となった。自治体、地元企業等の有識者からも大変興味深い取り組みであったとの感想を頂くことができた。	



2.4 先進事例・シンポジウム視察

各自治体の事例紹介や各大学の地方創生の教育カリキュラムの構築等について、それぞれの地域の特性を活かした取組・先進事例等を学ぶため、6 地区（東北、中部、近畿、中国、四国、九州）7 件の視察を以下のとおり実施した。

COC+シンポジウム等視察 実施一覧

地区	設置形態	大学等名称	事業名称	シンポジウム	参加大学	参加自治体	参加企業等
東北	国立	弘前大学	オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業	3月11日(金)13:00～16:00 会場:青森中央学院大学	青森県立保健大学、東北女子大学、八戸工業大学、弘前学院大学、八戸学院大学、青森中央学院大学、弘前医療福祉大学、青森中央短期大学、八戸工業高等専門学校	青森県、青森県青森市、弘前市、八戸市、むつ市	青森朝日放送、青森銀行、青森県銀行協会、青森県信用組合、青森テレビ
中部	国立	静岡大学	静大発“ふじのくに”創生プラン	2月16日(火)14:00～17:00 会場:ホテルセンチュリー静岡	浜松医科大学、電気通信大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、東海大学、愛知学院大学、沼津工業高等専門学校	静岡県、静岡県静岡市、浜松市、富士市、三島市、沼津市、富士宮市、御殿場市、伊豆市、裾野市、長泉町、清水町、函南町、小山町	静岡新聞社、静岡放送、静岡銀行、清水銀行、静岡信用金庫 他
近畿	国立	神戸大学	地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム	1月28日(木)13:30～16:30 会場:神戸大学	兵庫県立大学、神戸市看護大学	兵庫県、兵庫県神戸市	神戸商工会議所、兵庫県経営者協会、兵庫工業会、神戸新聞社
中国	公立	岡山県立大学	地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’人材育成事業	2月19日(金)14:00～17:00 会場:山陽新聞本社隣設さん太ホール	岡山大、岡山理科大学、ノートルダム清心女子大学、就実大学、山陽学園大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、吉備国際大学	岡山県、岡山県倉敷市、笠岡市、総社市、備前市、真庭市、高梁市	岡山県経済団体連絡協議会、岡山県商工会議所連合会、岡山県経営者協会、岡山経済同友会、岡山県中小企業団体中央会 他
四国	国立	高知大学	まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム	2月28日(日)12:00～17:10 会場:ザ クラウンパレス新阪急高知	高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校	高知県	土佐経済同友会、高知県中小企業家同友会、高知県工業会、高知県経営者協会
九州	国立	大分大学	地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン	2月8日(月)12:30～17:50 会場:レンブラントホテル大分	大分県立看護科学大学、日本文理大学、別府大学	大分県、大分県大分市、別府市、由布市	大分県商工会議所連合会、大分県商工会連合会、大分経済同友会、大分県経営者協会、大分県中小企業団体中央会 他
九州	国立	鹿児島大学	食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム	3月7日(月)13:00～16:40 会場:東急REIホテル	鹿児島体育大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島工業高等専門学校	鹿児島県	かごしま産業支援センター、鹿児島県工業技術センター、鹿児島県大隅加工技術研究センター、鹿児島県観光連盟、鹿児島県工業倶楽部 他

先進事例・シンポジウム等視察報告書

大学改革推進事業（COC+）

タイトル	COC+シンポジウム「大学と地域が協創する青森の未来」	
日時	平成 28 年 3 月 11 日（金）13：00 ～ 16：00	
会場	青森中央学院大学 学術交流会館	
形態	①基調講演 ②事例発表 ③学生発表 ④パネルディスカッション	
主催	青森 COC+ 推進機構（代表校：弘前大学）	
視 察 者	所属	役職・氏名
	総務課	課長 南部 元義
	総務課企画係	係員 塩盛 秀彰
視察内容	「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」の周知と認知度向上を目的で開催され、教職員、学生、自治体関係者、企業関係者、県内在住者ら約 200 名が参加した。 基調講演では、善本博司氏（文部科学省大臣官房審議官）が「地方創生と大学」と題して、我が国の地方を取り巻く現状と地方大学の強化について講演された。 また、学生メッセージとして、地元の企業に就職した弘前大学 4 年と青森中央学院大学 4 年の 2 名の学生が就職活動を通じて感じたことを中心に発表された。一人の学生からは「地元はどういった企業があるか分からない。調べたくても地元企業の情報が見つけれられない。」といった話しが印象的であった。 もう一人の学生については、大学在学中に学生企画である県内企業就職支援団体というものに加入していて、地元企業に触れる機会が増えるにつれて、県内企業に就職に至ったという。 実際に学生の声聞くことは、今後の COC+ を取り組んでいく上でもとても重要であると思った。 その後のパネルディスカッションでは、各パネリストから青森県の地方創生に貢献できる人財の育成や学生の県内定住への意見が発表された後、参加者との意見交換が行われた。	



先進事例・シンポジウム等視察報告書

大学改革推進事業（COC+）

タイトル	静大発“ふじのくに”創生プラン COC+キックオフシンポジウム	
日時	平成 28 年 2 月 16 日（火）14：00 ～ 17：00	
会場	ホテルセンチュリー静岡 クリスタルルーム	
形態	①基調講演 ②事例発表 ③学生発表 ④パネルディスカッション	
主催	静岡大学	
視 察 者	所属	役職・氏名
	電子制御工学科	准教授 島名 賢児
視察内容	平成 27 年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に静岡大学が代表校となって申請し採択された「静大発“ふじのくに”創生プラン」に関するキックオフシンポジウムに参加した。 前半は文部科学省、知事の基調講演を始め、静岡大学、静岡銀行、浜松信用金庫の担当者の講演があり、静岡県内の各団体での地方創生への取り組み案が示された。 さらにパネルディスカッションにおいては、「しずおかで学ぶ・働く・暮らす」というタイトルで、静岡大学や静岡県立大学出身で、現在、地元に残り様々な地域の課題解決に取り組む 20 代のパネリスト 3 名がそれぞれの地元への思いや問題点などを述べ、それに対してコメンテーターとして静岡市長、浜松市長、静岡大学学長がコメントを述べていた。 ディスカッションを聴講し、20 代の若者が地元に対してとても愛着を持ち、地域活性化に何か自分ができるかと真剣に考え、それに対して積極的に活動していることが印象的だった。	



先進事例・シンポジウム等視察報告書

大学改革推進事業（COC+）

タイトル	ひょうご神戸プラットフォーム COC+第1回シンポジウム	
日時	平成28年1月28日（木）13:30～16:30	
会場	神戸大学 瀧川記念学術交流会館 2階大会議室	
形態	①基調講演 ②事例発表 ③学生発表 ④パネルディスカッション	
主催	神戸大学	
視 察 者	所属	役職・氏名
	電子制御工学科	准教授 島名 賢児
視察内容	平成27年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に神戸大学が代表校となって申請し採択された「地域創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」に関する第1回シンポジウムに参加し、神戸大学のこれまでの取組や関係機関からの取組の報告について情報収集した。 神戸大学の改革構想に資する地域創生の5つの柱である、1）教養（共通）教育での地域社会理解基礎カリキュラムの導入、2）教育フィールド等を活かした学外での体系的・組織的教育、3）地域志向科目の学修環境の充実、4）地元企業の理解を求める多様なインターンシップの充実、5）雇用創出と結びつくイノベーション開拓、のプラットフォームとしての役割の重要性が示された。 そのほか、神戸大学では大学近隣にある団地の再生・活用プロジェクトを行っており、地域との学生を交えた交流を図っている。 また、環境教育の実践についても学生が積極的に参加しており、その事例紹介があった。	



先進事例・シンポジウム等視察報告書

大学改革推進事業（COC+）

タイトル	COC+キックオフシンポジウム ～おかやま創生に向けた地域人材育成～	
日時	平成28年2月19日（金）14：00 ～ 16：45	
会場	山陽新聞社隣設さん太ホール	
形態	①基調講演 ②事例発表 ③学生発表 ④パネルディスカッション	
主催	おかやま COC+推進協議会（代表校：岡山県立大学）	
視 察 者	所属	役職・氏名
	総務課	課長補佐（企画担当）安楽 四郎
視察内容	岡山県立大学が代表校となって採択された「おかやま創生に向けた地域人材育成」キックオフシンポジウムに参加し、事業の取組等について情報収集した。 基調講演（慶応義塾大学 福田 収一氏） ・鉄鋼業に依存していた従前の産業構造から脱却し、ハイテク、保健、教育、金融、サービス業を中心とした産業構造に転換し、地域経済の再生を遂げたアメリカピッツバーグの成功事例の紹介があった。 COC+の取組紹介 （岡山県立大学：渡辺富夫氏、広島市立大学：青木信之氏、岡山理科大学：堂田周治郎氏） ・クォーター制を導入した教育プログラムの計画や雇用・インターンシップマッチングシステムのデータベース化等の取組事例が紹介された。 パネルディスカッション ・企業や自治体が求める人材像等について意見交換が行われ、片岡総社市長から49%の事務処理能力と51%の開拓精神を持つ人材を求める。辻学長からは地域を知り地域を愛する人材育成が地方創生に繋がる。等の意見があった。	



先進事例・シンポジウム等視察報告書

大学改革推進事業（COC+）

タイトル	全国ネットワーク化事業 平成 27 年度 COC/COC+全国シンポジウム 大学改革と機能別分化地域における大学の存在意義の高まりと将来のあり方 （高知大学）への参加	
日 時	平成 28 年 2 月 28 日（日）12：00 ～ 17：00	
会 場	ザクラウンパレス新阪急高知（高知県高知市本町 4-2-50）	
形 態	①基調講演 ②事例発表 ③学生発表 ④パネディスカッション	
主 催	高知大学（※共催 高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校、 高知学園短期大学、高知県）	
視 察 者	所 属	役職・氏名
	総務課企画係	係長 田尻 正和
視察内容	COC および COC+大学が集まり、将来に向けた大学のあり方や、今後の国の政策について共に考える場として開催。 当日は 300 名を超える多くの参加があり、文部科学省と知事の挨拶もあった。その中で補助事業期間終了後も、事業を推進出来る体制構築のお願いがあった。 基調講演「地方創生と大学の役割」（明治大学農学部教授小田切徳美氏）では、3つの空洞化（ひと・土地・村）と田園回帰について講演があり「地方創生をブームだけにとどまらずムーブメントへ」という言葉が印象的であった。 パネディスカッションは「ひと・まち・しごと」の3つの分科会があり「ひと」分科会に参加し感じたのは、成功事例では教員が積極的に地域と関わっており、当初批判的な教員も学生の学びで意識が変わってきたこと等の報告があった。しごと分科会の報告で「地元企業と関わっている教員をもっと評価して欲しい」との意見紹介があった。 まとめで、地域力に対して皆がリスペクトし、地域の前進に繋がっていることの紹介があった。 会場には大学等の取り組みをまとめたポスターも掲示されていた。	



先進事例・シンポジウム等視察報告書

大学改革推進事業（COC+）

タイトル	「おおいた創生」事業キックオフシンポジウム ～地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン～	
日時	平成 28 年 2 月 8 日（月）12：30 ～ 18：10	
会場	レンブラントホテル大分 2 階二豊の間	
形態	①基調講演 ②事例発表 ③学生発表 ④パネルディスカッション	
主催	大学等による「おおいた創生」推進協議会（代表校：大分大学）	
視 察 者	所属	役職・氏名
	総務課	課長補佐（企画担当）安楽 四郎
視察内容	大分大学が代表校となって採択された「おおいた創生」事業に関するキックオフシンポジウムに参加し、事業の取組等について情報収集した。 特別講演 1（文部科学省 柳澤 好治氏） ・全教員が一人ひとつは新たに企業等と繋がり、それを学生に確実に還元するという具体的な動きを始めることや、責任者や専任の担当者を配置し、大学の教育活動を本事業と繋げ、体系化させることの提言。 特別講演 2（文部科学省 加藤 敏明氏） ・アクティブラーニングで高等教育改革を。 特別講演 3（(株) LIXIL 八木 洋介氏） ・ダイバーシティの価値を理解し活用するとともに、女性職員を積極活用した成功事例の紹介。 パネルディスカッション ・大学と自治体それぞれの対場から、これまでの取組と今後の目標について意見交換を行い、大分の特色を活かした独自の取組で、COC++（ダブルプラス）を目指し連携することを確認。 最後の質疑では、大分にもシリコンバレーを創るべき、地方創生の本来の意味を学生に理解させる機会が必要等、地方創生の主役である学生から力強い意見が出された。	



先進事例・シンポジウム等視察報告書

大学改革推進事業（COC+）

タイトル	COC+キックオフシンポジウム	
日時	平成28年3月7日（月）13:00～16:40	
会場	東急REIホテル	
形態	①基調講演 ②事例発表 ③学生発表 ④パネルディスカッション	
主催	かごしま「学卒者地元定着促進協議会」（代表校：鹿児島大学）	
視 察 者	所属	役職・氏名
	副校長(国際交流・地域連携担当)	地域共同テクノセンター長 植村 眞一郎
	副校長（総務・企画担当）	大竹 孝明
	総務課	課長補佐（企画担当） 安楽 四郎
	総務課企画係	係員 塩盛 秀彰
視察内容	本校も参画している「食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム」のキックオフシンポジウムに参加し、事業の取組等について情報収集を行った。 特別講演（リクルート進学総研所長 小林浩氏）で総務省と文科省が連携した取組みと大学と地域が連携した取組事例の紹介があった。 前述では、卒業後の連携として地方を選択する大学生等の増加を図るため、自治体と地元産業界が協力し、学生の奨学金返還を支援するための基金の造成。後述では、高齢化が進む地域におけるマンパワー不足への対応や地域の人の力を借りて社会人を育成するといった地域社会の実践活用を通じ、次世代を担う人材育成のカリキュラム構築について事例紹介があった。 パネルディスカッションでは、冒頭に新卒者の県外流出が全国と比較して多いことについて説明があり、学卒者の地元定着のため、鹿児島県工業技術センターとの連携による学生の人材育成や地元産業界が協力した奨学金制度の導入、鹿児島の特徴を活かした雇用創出、社会資本の整備を検討している等の意見交換があり、次年度から本格的に取り組んでいく姿勢であることが伺えた。	



2.5 ホームページの構築

本校のCOC+事業に関する取り組みについて、対外的に公開し、自治体及び地元企業をはじめ、県民の方に広く理解してもらうためにホームページを構築した。

今後、実施計画している事業については、トピックス欄にて情報を公開し、今まで取り組んできた事業については、活動報告欄にて公開していく。

COC+高専 トップページ (PC用)



2.6 評価会議

「COC+高専」として平成 27 年度に計画・実施した内容について検証し、今後の COC+事業に関する計画や改善に役立てるために、「COC+高専」地方創生推進会議のメンバーによる評価会議を以下のとおり開催した。

平成 27 年度「COC+高専」評価会議議事

1. 日 時：平成 28 年 3 月 16 日（水）

第 4 回「COC+高専」地方創生推進会議終了後

2. 場 所：鹿児島高専 管理棟 2F 中会議室

審議事項

1. 平成 27 年度事業報告について
2. 平成 27 年度事業の評価について
3. その他

1. 平成 27 年度事業報告と評価について

平成 27 年度の取り組みについて、楠原委員から説明が行われた。特に今年度の鹿児島高専の取り組みについては、COC+事業に採択されたのが 11 月であったことから、各学科において最低 1 回の地方創生特別講座（講義・講演、企業見学、体験学習）の実施と、教職員における地域企業見学会の実施を計画し、実行してきたとの説明があった。地方創生特別講座については、当初の計画を達成し、充実して取り組めたこと、また、地方創生特別講座のほかに、1 年生の地域企業見学会や 4 年生・専攻科生の地域企業研究会、学外での情報工学科の卒業研究発表会を実施したこと、次年度以降の取り組みに向けて、学生及び保護者を対象に就職に関するアンケート、また、地域企業を対象としてインターンシップや求人等に関するアンケートを実施し、意識調査を行ったことについて説明があった。

以上の説明を受け、次のとおり各委員から評価をいただいた。

1) 鎌田委員

事業の実施期間が限られた中、また、いろいろな業務で多忙な中で様々な取り組みを実施されていることを評価する。

実施する中で学生の反応がどうだったか教えてほしい。

2) 楠原委員

学生は、地域企業経営者や技術者の講義・講演、企業の生産現場や建築現場の見学等、日ごろ学校で受けている授業スタイルと違い、生の現場を見聞きし新鮮な形で実施することができ、とてもモチベーションが上がっていた。そのような意識の中で実施できたことは、地域企業を理解するために大変効果があったと感じている。

3) 谷口委員

いろいろな取り組みを実施していただき、地方創生に取り組む行政の立場からも感謝している。

KTC 会員企業との共同研究に関し、学生の関わりがどうだったのか。また、地域企業研究会については、KTC 会員企業を対象に実施されているが、霧島市誘致企業等 KTC 会員企業以外の参加の可能性はどのように考えているか。

4) 楠原委員

KTC 会員企業との共同研究に関しては、学生を交えた課題解決型のインターンシップとして 2 週間実施した。このことで地域企業が抱える課題について、学生が実際の現場で知ることができ、企業技術者と一緒に解決していくきっかけになったと考えている。

5) 植村委員

地域企業研究会については、KTC 会員企業を対象に実施したが、今後は地域のいろいろな企業が参加できるセミナーも必要である。これらについては、企業と学校のマッチングを行政側をお願いしたい。

6) 谷口委員

霧島市でも合同企業説明会を計画中である。その際、企業から学校に来てもらい実施する方が効果的であると考えている。その場合、高専を会場に実施できるか。

7) 植村委員

高専の次年度年間行事予定は既に決定しているが、実施時期、時間帯、実施方法等を事前に相談頂ければ高専で実施することは可能である。

8) 小豆嶋委員（松崎委員の代理出席）

今年度の全体の取り組みは大変よく実施されていると思う。一つ、教職員による企業・工場見学は計画通り実施できたのか。

9) 楠原委員

事業実施期間内における教職員の企業・工場見学等は、学生引率の教職員は見学できたが、教職員による工場見学は計画通りには実施できなかった。ただ、COC+事業の採択前に本校の自主事業という形で、KTC 会員企業の企業見学を実施した。

なお、教職員による企業見学等は、地域志向の学生を育成していくうえでも大変重要であることから、次年度については、学生の長期休業中を利用して実施する予定である。

10) 山口委員

評価という点では、大変よく実施されていると思う。企業向けのアンケート調査

において、業種の調査項目はあったが、職種の項目がなかったもので、これらについてもアンケート調査すればよいと感じた。

11) 泊委員

高専の取り組みは大変評価できるものである。立地の条件から、日置市の企業は高専のことを知らなかったり、高専の教職員・学生も日置市の企業をよく知らなかったりしている。日置市は酒造メーカーも多数あり、それらの高専と直結しないような企業見学もぜひ実施してほしい。

12) 楠原委員

次年度は日置市異業種交流懇話会に出席して、COC+事業における高専の取り組みと事業計画等を紹介したいと考えている。

13) 泊委員

中学生やその保護者に対して地域企業説明会を実施し、それらを介して高専をPRするとともに、入学の段階においても、地域を意識した取り組みを実施していることを紹介することで、高専への志願者増に繋がられないか。

そういうお手伝いができればと考えている。

14) 堀切委員

COC+高専で取り組まれた事業については、大変評価している。特に、地元の木質発電所の見学は、アンケートの意向を反映しており、大変良い取り組みといえる。今後は工業系の業種にとらわれず、いろいろな分野の企業見学等を行うことで、さらに事業の推進を図れるのではないか。

霧島市でも高専を対象とした、産学官が連携した取り組み事業を計画している。今回の高専の取り組みを参考とさせていただきたい。

15) 眞竹委員

今回の事業は大変良い取り組みをされていると思う。鹿児島経済研究所もアンケート調査で協力をさせてもらった。これまでの事業では、産学官の連携事業として取り組まれてきたが、今後は是非“産・学・官+金”の連携事業として実施していただきたい。鹿児島経済研究所もこれまで以上に協力していきたい。

まとめ

出席の全委員から COC+高専の事業について、大変よく実施されているとの評価を得た。今後も、年度ごとに設定した地元就職率の数値目標（事業最終年 38 名）を達成していくとともに、最終的には、就職を希望する学生の地元就職率 50%を目標に、産学官金が連携し、さまざまな事業に取り組んでいくことを確認した。

2.7 地方創生シンポジウム

地方創生シンポジウム 2015 は、本校と本校の産学官連携組織である錦江湾テクノパーククラブ（通称：KTC）の共催により実施した。

当シンポジウムは、産学官（地域企業・高専・自治体）連携による地方創生（地元企業への就職率向上、地域産業の活性化、新産業育成・雇用創出）に向けた効果的な方策を探るとともに、KTC 会員との一層の連携強化、地域住民への周知のために本事業が開始される前に本校の自主事業として実施したものである。

地方創生 シンポジウム 2015

参加費：無料
要事前申込（定員100名）

～高専・企業・自治体の産学官連携による鹿児島の地方創生～

近年、地方創生の重要性が叫ばれる中、鹿児島高専では就職を希望する卒業生の地元定着率 50% を目指し、様々な取組を実施しているところ。今回、高専・地域企業・地元自治体それぞれの立場で率直な意見交換を行い、産学官連携による地方創生（地元企業への就職率向上、地域産業の活性化、新産業育成・雇用創出）に向けた効果的な方策を探ります。

基調講演 「鹿児島における地方創生を考える」

衆議院議員 環境副大臣兼内閣府副大臣
小里 泰弘 氏

■プロフィール
平成17年：衆議院議員初当選
平成19年：自民党国会対策副委員長
平成23年：自民党東日本大震災緊急対策プロジェクトチーム座長
平成24年：自民党副幹事長・自民党農林部会長
平成25年：農林水産大臣政務官
平成26年：現職（環境副大臣 兼 内閣府副大臣）

パネルディスカッション

魅力ある「まち・ひと・しごと地方創生」を考える

～新卒者の雇用創出に向けて、自治体・企業・高専の立場から～

■コーディネーター
鹿児島工業高等専門学校教授
楠原 良人 氏

■パネリスト
霧島市長
前田 終止 氏
日置市長
宮路 高光 氏
(株)九州タブチ代表取締役社長
鶴ヶ野 未央 氏
(株)JGE代表取締役社長
宮村 憲一 氏
鹿児島工業高等専門学校長
丁子 哲治 氏

開催日 平成27年8月31日月

会場 ホテル京セラ 本館地下2F 凜の間
(霧島市隼人町見次1409-1)

主催 鹿児島高専・錦江湾テクノパーククラブ

日程
14:00 開会の挨拶
14:15 基調講演
15:15 休憩
15:30 パネルディスカッション
17:00 閉会の挨拶

お問合せ先 鹿児島工業高等専門学校 総務課企画係
Tel : 0995-42-9038 Fax: 0995-43-4271
kikaku@kagoshima-ct.ac.jp

第1部に「鹿児島における地方創生を考える」と題した小里泰弘氏による基調講演では、少子高齢化が進む中での地域の活性化、特に鹿児島における地方創生では、国や地方自治体の支援制度を有効に活用して、地域に点在する観光資源の活用や鹿児島空港を中心とした観光・物流の拠点化などに積極的に取り組んでいくべきであるとの助言があった。

第2部の『魅力ある「まち・ひと・しごと地方創生」を考える～新卒者の雇用創出に向けて、自治体・企業・高専の立場から～』をテーマとしたパネルディスカッションでは、コーディネーターの楠原良人教授から新卒者の地元企業への就職と定着を図るための方策等について説明があったのち、それぞれの立場から意見をいただいた。

まず、自治体の立場として、霧島市長の前田氏から、霧島市の立地条件を活かし、鹿児島空港や高速ICを拠点とした積極的な企業誘致に取り組み、地域の雇用創出を図ってきたことについて説明があった。また、日置市長の宮路氏からは、日置市と地域企業及び鹿児島高専が連携した小水力発電や再生可能エネルギーに関する先進的な事業に取り組んできたことについて述べられました。

次に企業の立場として、鶴ヶ野氏と宮村氏から、地元企業への就職・定着率が低いことや県外に就職した若者の離職率が高いこと、地域企業の学生に対する認知度が低いことなどの懸念事項について述べられた。

最後に高専の立場として、丁子校長から高専の設立目的や高専としての役割、高専が今特に力を入れていることについて述べられた。そして、最後に、鹿児島高専では、地域の少子化を乗り越えるためにも、地域の発展に貢献する多くの優秀な卒業生を輩出することを目指しているとの発言があった。

意見交換が盛んに行われ、今後の方針等が明確になり、今後、雇用創出・地元定着・住みよいまちづくりに向けて議論を重ねていくことが約束された。



基調講演：小里 泰弘 氏



パネルディスカッション風景



左から楠原コーディネーター、
前田霧島市長、宮路日置市長



左から宮村氏、鶴ヶ野氏、丁子校長

2.8 教職員による企業見学

学生への就職支援等のために、まず本校の教職員が地元の企業を知る必要があるため、教職員を対象として、地域企業の見聞を広げるために実施した。なお、本事業は KTC と協働で実施しており、COC+事業が開始される前に本校と KTC の自主事業として実施した。

日 時：平成 27 年 9 月 17 日（木）

見学先：アルバック九州株式会社（鹿児島県霧島市横川町）

参加者：教職員 9 名、産学官連携教育コーディネーター1 名

アルバック九州株式会社は、株式会社アルバックの生産子会社として、産業界の幅広い分野で採用されている真空装置、真空ポンプ・真空バルブ、材料等の製造を担当しており、特に真空装置は、R&D 用の小型装置から量産用の大型装置まで、全世界に提供している。

また、省エネ・リサイクル・CO2 排出量削減等、地球環境に配慮した様々な環境維持活動、及びコンプライアンスやリスクマネジメント、CSR（企業の社会的責任）等についても積極的に取り組んでいる。

アルバック九州株式会社は、創業 35 年鹿児島本社の企業で「真空総合メーカー」として、「モノづくり」の実績を生み、その技術・ノウハウが集約・蓄積しております。近年は、そのノウハウを海外に視野を向け、世界へと発信・展開している。

今回の見学会では、現在取り組まれている事業内容の説明や作業現場を見学し、世界で活躍するアルバック九州株式会社の理解を深める大変貴重な機会となりました。

今後とも、地域企業への理解を深めるため、継続して KTC 会員企業への見学会を実施していく。



企業紹介等



アルバック九州(株)と本校教職員の人材交流



記念撮影

3.今後の取組

3.1 COC+事業の取組概要

政府は、平成 26 年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、平成 27 年度から各省庁ごとに地方創生事業を計画、推進している。内閣府の地方創生推進事業の基本目標は以下の 4 項目である。

<目標Ⅰ>地方における安定した雇用を創出する

<目標Ⅱ>地方への新しいひとの流れをつくる

<目標Ⅲ>若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

<目標Ⅳ>時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

特に高等教育機関の地方創生事業の中心となる「目標Ⅰ：地方における安定した雇用を創出する」においては、「しごと」と「ひと」の好循環作りとして、地域産業の競争力強化（業種横断的取り組み、分野別取り組み）、包括的創業支援、中核企業支援、地域イノベーション推進などを掲げている。文部科学省は、平成 27 年度大学等高等教育機関教育再生戦略推進として、地方で活躍する人材の育成や産業の活性化、地方が果たすべき役割として、大学等高等教育機関の機能別分化を推進することとしており、大学等と市町村の自治体、NPO 法人、商工会議所などの民間団体や一般企業などと協働し、地域が求める人材を育成するとともに、若年層の地元定着を推進し、魅力ある就職先を創出・開拓することとしている。これら背景から、鹿児島高専が行うべき COC+地方創生推進事業としては、基本目標Ⅰに関連する以下の項目となり、霧島市、日置市の地方創生基本目標と連動させた取り組みとなる。

<鹿児島高専における COC+地方創生推進の基本項目>

I. 地元就職率と定着率の向上
・ 地域ニーズを捉えたキャリア教育の構築
・ 地元企業の魅力を引き出す“特別講義”、“体験型学習”、“施設見学”の地域理解の地域思考教育の構築
・ 地元就職を促す“地元企業へのインターンシップ”の強化
・ 地元就職を促す“企業説明会（研究会）”の促進
II. 高専の“知”と市・商工会・団体の“地”を活かした
・ 新産業創出、地元企業支援
・ 高専のシーズと地元企業のニーズを活かした共同研究・開発
III. 地元産業界のニーズを踏まえた教育改革の推進
・ 地域ニーズを把握した教育プログラムの構築

霧島市の「霧島市地方創生総合戦略骨子」の基本目標Ⅰの抜粋

基本目標Ⅰ：まちを元気にする，人を豊かにする産業づくり

- ・新産業の創出支援
- ・地場産業の育成支援
- ・新規創業を目指す産学官金連携による地場者への支援
- ・産業の活性化
- ・高等教育機関との連携事業 共同研究・開発事業の促進

日置市の「日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子」の基本目標Ⅰの抜粋

基本目標Ⅰ：「働いてよし」安心して働ける安定した「しごと」を創出する

- ・創業者支援
- ・地場産業支援
- ・企業誘致推進
- ・新産業創出支援
- ・7次産業化の推進

これらの学と官の基本項目をベースに、平成28年度以降の鹿児島高専COC+事業として、錦江湾テクノパーククラブ、霧島市、日置市の商工会議所、商工会、企業団体等と産学官で協働して、下記に示す5つの協働事業を推進する。

これは、平成27年8月31日にホテル京セラにおいて開催した「地方創生シンポジウム2015」のパネルディスカッションにおいて、霧島市長、日置市長ともに、推進する事業として掲げたものである。具体的には、産学官が協働した連携事業として、「連携インターンシップ」、「連携企業合同説明会」、「地域志向教育特別講座」、「企業奨学金制度」により、地元企業就職率と地元定着率をアップさせ、持続可能な地方創生事業を実施する。

平成28年度は、下記の協働事業Ⅰ～Ⅴについて、COC+高専地方推進会議を年4回程度開催し、事業の進め方、進捗状況等を議論し、評価会議により目標値をチェックしながら進める。

＜協働事業Ⅰ＞ 地元企業インターンシップの推進

- ・鹿児島高専は、学生の受け入れ企業の巡回指導をすることにより、地元企業を知り、市役所は地元企業の雇用のニーズを知る。商工会議所・団体・企業は、採用側のニーズを知る。学生は、企業体験を通して、地元企業を知り、新規学卒者の地元就職率アップを狙う。

＜協働事業Ⅱ＞ 地元企業合同説明会の推進

- ・鹿児島高専は就職指導、市役所は説明会の企画、企業と高専へ参加を促し、学生の就職と企業の求人のマッチングを行い、合同説明会により、地元就職率の向上を目指す。

<協働事業Ⅲ>地域志向教育特別講座の推進

・商工会・企業、市役所から高専へ有識者、技術者、職員を派遣して、学生に地域の産業・環境・文化などに地域資源に関する分野の講演をして、地域社会を理解してもらうための「地域教育特別講座」を設け実施する。将来の地域の活性化を担う若年者の人材育成を行う。

<協働事業Ⅳ>奨学金制度による地元企業就職の推進

・地方創生交付金を活用し、市役所および企業が連携して地元での新卒者の雇用と定着を図るための地元企業就職支援奨学資金制度もしくは地元企業就職奨励金制度を検討し、地元就職を推進する。

<協働事業Ⅴ>高専シーズと地元企業ニーズによる共同研究の推進

・産地方創生交付金を活用し、地域の特徴を活かした新産業創出を図るため、高専のシーズと地元企業のニーズをマッチングさせた共同研究を推進する。助成金制度を設ける。

これらの事業は、図 3.1 に示すように地元就職率と定着率向上を目指した持続可能なスパイラルで地方創生事業を推進する。

まず、学生が地元の企業技術者、有識者から地域の産業・環境・文化など、地域資源に関する講演を聴講し、地域社会及び地元企業を理解する。次に、これをもとに地元企業の連携インターンシップを受講することで、企業情報を提供し、そして、企業合同説明会を実施することで、企業求人と学生の就職希望のマッチングを行い、新卒者の地元就職率を向上させる。さらに、自治体と企業が連携して奨学資金あるいは奨励金を準備し、地元就職率向上を図る。このような持続可能なループで地元就職を推進する。また、新産業創出や地元企業支援を基本とした地域に特化した新製品開発を推進のために、鹿児島高専と地元企業との産学官共同研究を行う。



図 3.1 地元定着を図る持続可能な地方創生

3.2 平成 28 年度 of 取組計画

学生が地域企業を知り、地域企業をより理解するためのさまざまなプログラムを実施し、地元企業への就職率と定着率の向上を図り、地元就職率 21%を目指す。平成 28 年度の具体的な取り組み計画を以下に示す。

- ① 「COC+高専」地方創生推進会議を期間中 4 回程度開催する。
- ② 本事業を対外的に広報するホームページを随時更新する。
- ③ 学生に対し地域企業の理解を深めるための特別講義・講演、企業（工場）見学と体験学習を行う。

- ④学生及び保護者に対し地域企業の理解を深めるための地域企業研究会を行う。
- ⑤教職員に対し地域企業の理解を深めるための企業講演や工場見学を行う。
- ⑥学生の卒業研究発表会をその成果を地域へ知らせるために、地域企業団体等と連携を図りながら学外で開催する。
- ⑦これまでの取組について評価会議を開催する。
- ⑧平成 28 年度の取組をまとめ報告書を作成する。

3.3 実施体制

実施体制としては、図 3.2 に示すような官である霧島市役所と日置市役所の公的資源と、産である地元企業の技術的資源と、学である鹿児島高専の知的かつ人的資源を生かしながら、産学官で連携して、地元就職率の向上、地元企業の活性化、雇用創出、新産業育成、人材育成、共同研究を行う。



図 3.2 鹿児島高専にける COC+事業の産学官実施体制概略図

さらに、図 3.3 に示すように、産学官の各組織である鹿児島高専、霧島市役所、日置市役所、錦江湾テクノパーククラブ、霧島市商工会議所、日置市商工会、霧島市誘致企業団体、日置市異業種交流懇話会など企業団体とともに、産学官連携による新卒者の地元企業への就職と定着を図るための方策と支援を検討し、両市役所、商工会議所、企業団体が一体となって、情報共有し、インターンシップ、企業合同説明会を開催し、学生の就職活動、企業の求人活動を組織的に支援する仕組みを構築する。

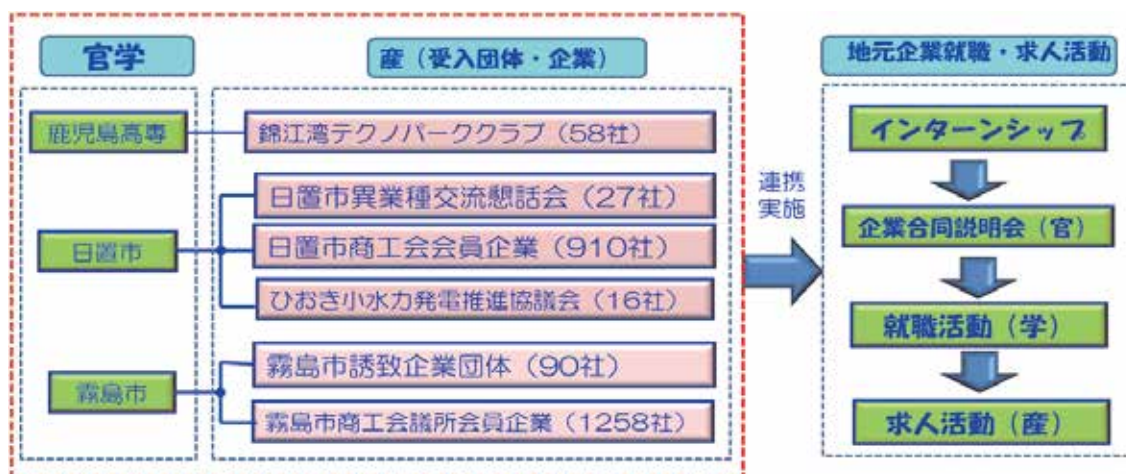


図 3.3 鹿児島高専にける COC+事業の産学官実施体制概略図

鹿児島高専における実施体制を図 3.4 に示す。地域共同テクノセンター傘下の管理部門、地域交流部門、共同研究部門が中心となって、学生課の学生係、教務係と連携しながら産学官の協働事業Ⅰ～Ⅴを推進する体制で行う。

具体的な流れとして、管理部門は、COC+事業全体の運営支援を行い、地域交流部門は、学生課学生係とともに、インターンシップおよび企業合同説明会の計画と実施、かつ、県内企業求職情報の管理と提供、共同研究部門は、学生課教務係と連携して、地域志向特別講座、施設見学などの計画と実施、地域志向科目のカリキュラム構築、および教員研究シーズの収集と情報提供を行う。さらに、研究部門は、錦江湾テクノパーククラブとの共同研究の推進を行い、外部資金獲得の促進、外部へ研究発表の促進を行う。

COC+ワーキングチームは、地域志向特別講座、施設見学を実施する上での窓口となり、COC+事業がスムーズに進行するよう支援する。

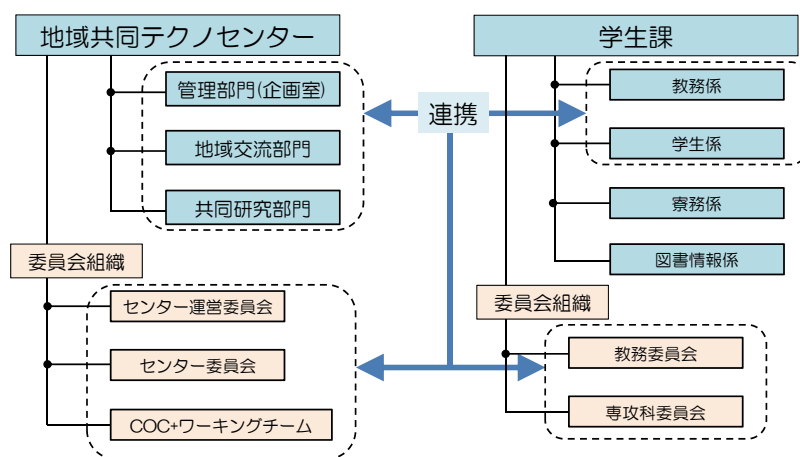


図 3.4 鹿児島高専内の COC+事業実施体制概略図

3.4 まとめと課題

上記の内容と実施体制で、平成 28 年度の COC+事業を遂行して行くが、その上で、効率的にかつ確実な事業遂行には、鹿児島高専と霧島市、日置市、企業団体との協力・協働体制の構築が必要である。以下にその課題を列挙する。

- ・自治体の中に連携を掌る課の設置と協働事業を具体的に実行していくことが課題である。
- ・インターンシップ受け入れ企業の確保が必要で、学生のインターンシップ希望と受入れ企業との繋ぎを行う組織の確立が必要である。
- ・地域ニーズによる研究テーマの探索が必要で、具体的には、地域企業の持つニーズをどのように高等教育機関へ情報発信していくかが課題である。
- ・地域企業の魅力を発信する組織が必要で、具体的には 地域業の魅力を学生に知らしめるための情報と発信源の構築が課題である。

4.おわりに

4.1 おわりに

近年、ニュースや新聞などで「地方創生」という言葉を頻繁に見聞きするようになった。特に地方での少子高齢化や人口減少が進む中、地方を活性化させる方策の一つに学生を地元へ根付かせ、地方活性を引っ張っていくことで魅力ある地方再生の原動力となってもらおうという動きが起こりつつある中、文科省が公募した「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に、鹿児島大学を中心として県内7大学・短期大学及び鹿児島高専が連携して、このCOC+事業に応募し採択された。テーマは「食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム」で、鹿児島県、地域産業界、金融機関等と協働した「オール鹿児島」により、魅力ある地域の食と観光関連産業等における新規雇用の創出と雇用の拡大とを図ることを目的としている。

本校としては、その枠組みの中で「COC+高専」事業として取り組み、卒業生の多くが鹿児島県内の企業に就職し地域のリーダーとして活躍してもらいたいとの願いを持っている。そのため鹿児島高専としてのCOC+事業プログラムとして、これまで地域企業の技術者の方を講師として招き、実践的な講義や技術指導を行って頂いたり、キャリア教育の一環として技術的工学的見聞を広める企業見学を複数実施してきた。また関連して、教職員のKTC会員企業見学やKTC会員企業PRのための企業パンフレットの作成、KTC会員企業による本校学生に向けた企業紹介など、学生・教職員及び企業のニーズにマッチした事業を積極的に取り組んでいる。さらに、本校の産学官連携組織であるKTCの会員企業や霧島市や日置市をはじめ各地方自治体にも尽力いただき、協働して推進していく”「COC+高専」地方創生推進会議”を設置し本事業に取り組んでいる。

地方創生という大きな枠組みで進み始めたCOC+事業であるが、そもそもは大都市一極集中を是正し、地方を活性化しなければ地方の発展、ないしは日本のバランスの取れた発展はない。その意味では大変スケールの大きい事業であるが、特に大都会から離れた鹿児島にとっては、是非とも霧島市、日置市から地方創生を果たし、地元の活性化に貢献し地元から必要とされる高専でなければならないと考える。若者が大都会に憧れる気持ちもわからないではない。しかし、この事業を通して学生が地元をもっと知り、鹿児島の発展に貢献したいと思う学生が徐々に増えていくことを期待したいし、本校としては、将来鹿児島の産業、製造業をリードする技術者を育成することが我々に課せられた課題でもあると思う。



発行日：平成28年3月

鹿児島工業高等専門学校

地域共同テクノセンター

〒899-5193 鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1

☎0995-42-9038